



平成30年度

# 事業概要

道路局

# 目 次

	ページ
◇平成30年度 道路局運営方針	1
◇主な事業・取組	
Ⅰ 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備	3
～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～	
1 広域的な道路ネットワークの形成	
2 市内道路ネットワークの充実	
3 米軍施設返還跡地関連道路の検討	
Ⅱ 市民生活の安全・安心の確保	13
～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～	
1 防災・減災対策	
2 計画的な保全・更新・維持管理	
3 誰もが安全・安心に利用できる道路空間	
Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり	27
～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～	
1 まちの利便性の向上	
2 地域交通の確保に向けた取組	
3 まちの魅力創出	
◇平成30年度 道路局予算	32
◇損失補償	42
◇＜参考＞ 各区土木事務所との連携	43

## 平成30年度 道路局予算の編成

### 本文中の予算額の表記について

#### ◆ 平成30年度当初予算と29年度当初予算

XX億XXXX万円	(XX億XXXX万円)
30年度当初予算	29年度当初予算

※1万円未満は四捨五入しています。

#### ◆ 再掲した事業については本文中に【再掲】と表記しています。

## <コラム一覧>

コラム①	横浜北線（横羽線～第三京浜）の開通について	5頁
コラム②	圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について	6頁
コラム③	～京浜急行金沢八景駅と繋がります 金沢シーサイドライン延伸工事～	7頁
コラム④	東京丸子横浜線【綱島地区】の整備について	7頁
コラム⑤	着工準備採択とは？	9頁
コラム⑥	都市計画道路の整備について	10頁
コラム⑦	～平成29年度中に開通（完成）!!～	10頁
コラム⑧	渋滞対策について	11頁
コラム⑨	地震に強い都市づくりの推進	13頁
コラム⑩	無電柱化の推進に向けた取組	14頁
コラム⑪	和泉川改修事業 平成30年度末全川通水へ！	15頁
コラム⑫	神奈川県大規模氾濫減災協議会 「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指して！	17頁
コラム⑬	延焼遮断帯の形成	18頁
コラム⑭	災害時に備えて	18頁
コラム⑮	水銀灯のLED化事業（水銀に関する水俣条約への対応）	21頁
コラム⑯	道路土木GIS（Geographic Information System）	22頁
コラム⑰	ビッグデータを活用した交通安全対策	25頁
コラム⑱	自転車駐車場附置義務制度の条例について	28頁
コラム⑲	地域交通サポート事業による取組	29頁
コラム⑳	水辺愛護会は平成29年に制度発足20周年を迎えました！	31頁

# 平成30年度 道路局運営方針

## 1 基本目標

「チーム道路」の総力を結集させ、市民生活や横浜経済を支える強靱な都市基盤を構築し、安全・安心で愛される道路・河川空間づくり、災害に強いまちづくりを実現します。

## 2 目標達成に向けた施策

新たな中期計画の基本的方向を踏まえ、3つの視点から取組を進めます。

### (1) 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

横浜環状道路の早期整備を実現することで、高速道路ネットワークを充実させ、横浜港の国際競争力の強化をはじめとする広域的なアクセス性の強化、災害時のリダンダンシー（多重性）の確保、幹線道路における渋滞の緩和などを図ります。

都市計画道路等の整備を着実に進め、市民生活における利便性・安全性向上、市域の一体化を図るとともに、ボトルネックとなっている交差点の渋滞対策、「開かずの踏切」の解消に向けた連続立体交差事業等にも積極的に取り組みます。

米軍施設返還跡地の利用など、まちづくりにあわせた効果的な道路整備を進めます。



整備中の横浜環状北西線

### (2) 市民生活の安全・安心の確保 ～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を着実に進めるとともに、無電柱化の推進等に取り組みます。

様々な施策を実行し、生活道路や通学路における安全対策を進めることで、子どもや高齢者など誰もが安全・安心に利用できる道路空間を実現します。

老朽化する施設が加速的に増加する中で、計画的な保全・更新、日々の維持管理に加え、道路照明のLED化等による環境対策を進めることより、将来にわたる安全性の確保を図ります。



水防災情報システム(洪水時カメラ画像)

### (3) 魅力あるまち・みちづくり ～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

歩行空間のバリアフリー化や自転車利用環境の向上に取り組むとともに、市民に身近なバス・タクシー等の地域交通の維持・充実など、まちの利便性の向上に取り組みます。

「健康寿命日本一」の実現に向けた健康みちづくり等の推進、生物多様性に配慮した河川環境の整備などにより、まちの魅力を高めていきます。 (緑区山下地区)

「ハマロードサポーター」や「水辺愛護会」の道路・河川の美化活動支援や、子ども達の身近な自然体験活動の場となる「水辺の楽校」開催の支援など、市民・事業者・学校など、多様な主体との協働による取組を進めます。



地域の共助によるボランティアバス  
(緑区山下地区)

## 3 目標達成に向けた組織運営

これまで受け継がれてきた「技術力」を組織的に継承し、人材育成に取り組むとともに、職員が意欲と能力を最大限発揮できる職場環境づくり、ワーク・ライフ・バランスや業務の効率化を意識して働き方改革に取り組めます。

また、市民の皆様や社会からの要請に全力で応える意識を職員一人ひとりが持ちながら、道路局、土木事務所が「チーム道路」で一丸となって取り組みます。



#### 4 予算総括表

### <一般会計>

平成30年度の道路局の一般会計の当初予算額は935億5932万円、対前年度比86億8661万円、10.2%の増となっています。

(単位：千円)

科 目	30年度 当初予算額 (A)	29年度 当初予算額 (B)	増▲減額 (A)－(B)	増▲減率
歳 出	<b>93,559,315</b>	<b>84,872,703</b>	<b>8,686,612</b>	<b>10.2%</b>
12款 道路費	92,422,458	83,611,879	8,810,579	10.5%
1項 道路維持管理費	23,828,921	23,249,465	579,456	2.5%
2項 道路整備費	65,076,960	57,188,499	7,888,461	13.8%
3項 河川費	3,516,577	3,173,915	342,662	10.8%
17款 諸支出金	1,136,857	1,260,824	▲123,967	▲9.8%

財源内訳	30年度 当初予算額	29年度 当初予算額	増▲減額	増▲減率
特定財源	62,940,126	58,248,316	4,691,810	8.1%
国庫支出金	17,515,557	15,867,247	1,648,310	10.4%
県支出金	710,600	627,190	83,410	13.3%
使用料及び手数料	9,133,112	8,286,461	846,651	10.2%
諸収入等	8,464,857	7,300,418	1,164,439	16.0%
市債	27,116,000	26,167,000	949,000	3.6%
一般財源	30,619,189	26,624,387	3,994,802	15.0%

### <自動車駐車場事業費会計>

平成30年度の道路局の自動車駐車場事業費会計の予算額は9億9907万円、対前年度比5077万円、4.8%の減となっています。

(単位：千円)

科 目	30年度 当初予算額 (A)	29年度 当初予算額 (B)	増▲減額 (A)－(B)	増▲減率
歳 出	<b>999,069</b>	<b>1,049,843</b>	<b>▲50,774</b>	<b>▲4.8%</b>
1款 自動車駐車場事業費	999,069	1,049,843	▲50,774	▲4.8%
1項 運営費	565,160	502,480	62,680	12.5%
2項 公債費	432,909	546,363	▲113,454	▲20.8%
3項 予備費	1,000	1,000	0	0.0%

財源内訳	30年度 当初予算額	29年度 当初予算額	増▲減額	増▲減率
特定財源	566,160	503,480	62,680	12.4%
国庫支出金	89,100	47,850	41,250	86.2%
使用料及び手数料	400,448	376,539	23,909	6.3%
諸収入等	76,612	79,091	▲2,479	▲3.1%
一般会計繰入金	432,909	546,363	▲113,454	▲20.8%

# 主な事業・取組

## I 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

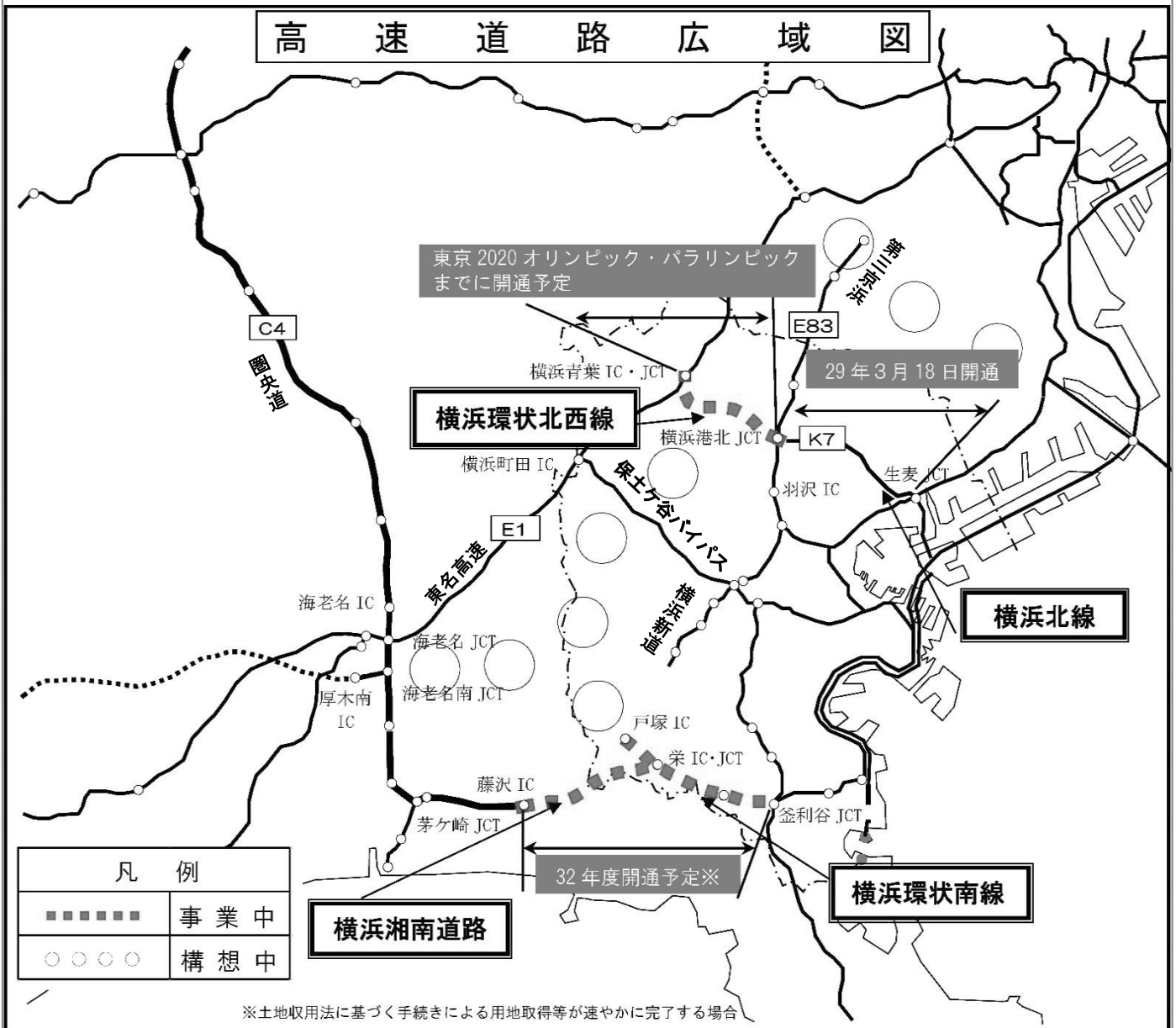
### 1 広域的な道路ネットワークの形成

横浜環状道路等の整備

351億9114万円（334億8657万円）

平成29年3月に開通した北線に引き続き、東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指し、北西線の整備を進めます。

また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部を構成する南線及び横浜湘南道路の整備促進を図ります。



ア 横浜環状北西線

229億9024万円（207億9427万円）

共同事業者である首都高速道路株式会社と連携し、引き続きシールドトンネル工事や橋梁工事、換気所工事等を進めます。

また、本線と一般道路を結ぶ川向線などの関連街路の工事を進めます。

なお、事業費負担の平準化を図るため、平成29年度に引き続き首都高速道路株式会社による立替施行を実施します。（平成30年度立替施行予定額 約176億円）



**横浜環状北西線**  
 ・区間 青葉区下谷本町（東名高速道路 横浜青葉IC・JCT）～都筑区川向町（第三京浜道路 横浜港北JCT）  
 ・延長 約7.1Km  
 ・事業者 横浜市、首都高速道路㈱

**横浜環状北線**  
 ・区間 都筑区川向町（第三京浜道路横浜港北JCT）～鶴見区生麦二丁目（横浜羽田空港線生麦JCT）  
 ・延長 約8.2Km  
 ・事業者 首都高速道路㈱



橋りょう工事（青葉区下谷本町）  
（平成30年3月）



シールドトンネル坑内  
（平成30年3月）



換気所工事（都筑区東方町）  
（平成30年3月）

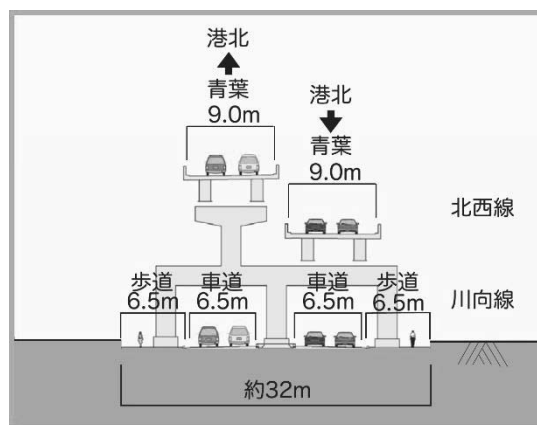
<関連街路>

川向線（川向地区）ほか

横浜港北ジャンクションには、北西線・横浜北線に乗り降りできる港北出入口（仮称）を新設します。

周辺の交通の流れをスムーズにするために、港北出入口と接続する関連街路を北西線の高架下等に整備します。

関連街路は、東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指す北西線に合わせて整備を進めます。



## イ 横浜環状北線

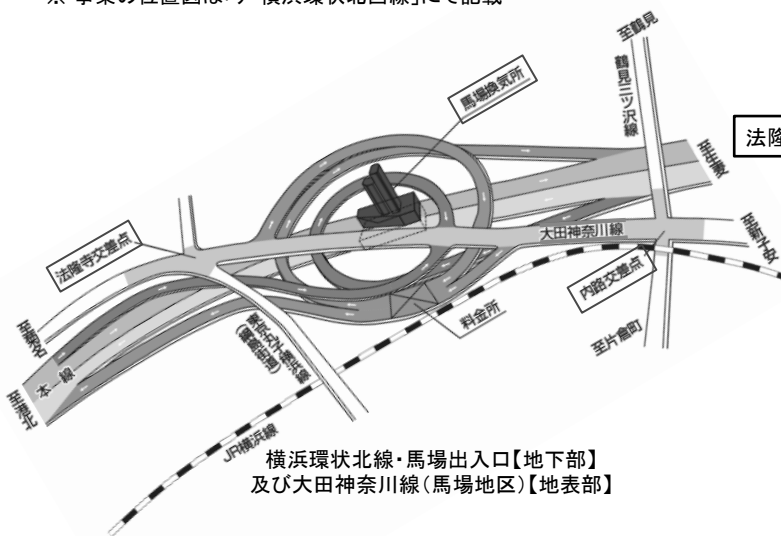
22億1200万円（32億5486万円）

馬場出入口は、平成31年度の開通を目指し、事業者である首都高速道路株式会社とともに整備に取り組みます。

馬場出入口と一体的に整備する大田神奈川線は、法隆寺交差点から内路交差点までの区間について、関連街路事業として平成33年度を目標に往復4車線へ拡幅整備します。これにより高速道路ネットワークへの円滑なアクセスを確保するとともに、交差点周辺の混雑緩和、歩道整備による歩行者の安全性向上が期待できます。

### 馬場出入口及び大田神奈川線（馬場地区）

※ 事業の位置図は「ア 横浜環状北西線」にて記載



横浜環状北線・馬場出入口【地下部】  
及び大田神奈川線（馬場地区）【地表部】



工事実施状況（平成29年6月）

## コラム① 横浜北線（横羽線～第三京浜）の開通について



整備を進めてきた横浜環状北線は、首都高速道路神奈川7号横浜北線として、平成29年3月18日に開通しました。

この開通により、高速道路で新横浜周辺と「港」がつながり、さらに「空」の玄関口・羽田空港とのアクセスが向上しました。

開通後の整備効果※としては、新横浜駅から羽田空港間の所要時間は約8分短縮（約43分→約35分）、新横浜から横浜港間の所要時間は約6分短縮（約24分→約18分）とアクセス性が向上しました。また、横浜北線沿線の工場からは、川崎・鶴見地区への配送ルートにおいて、1日あたり配送時間が10～40分短縮し、残業時間短縮に寄与しているとの声や、沿線に立地する神奈川県赤十字センターからは、血液輸送時間の短縮が図れ、複数の搬送ルート選択により、交通状況に応じた活動が可能になった等の声をいただいています。

※首都高速道路株式会社プレスリリース（平成30年4月25日）

「横浜北線（横羽線～第三京浜）開通後の整備効果について」



横浜北線の開通式典（平成29年3月18日）

写真提供：首都高速道路株式会社



開通記念イベント 横浜北線ファンラン（平成29年3月12日）

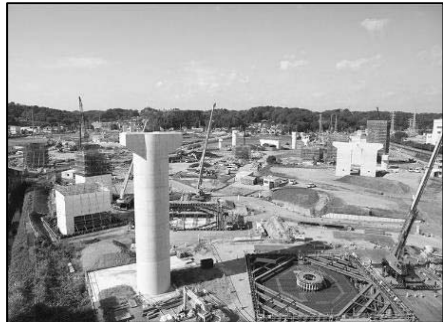


ウ 横浜環状南線・横浜湘南道路

99億8890万円（94億3744万円）

トンネルや橋梁工事等を実施している、国土交通省及び東日本高速道路株式会社と連携し、早期整備に向けて取り組みます。

また、南線・横浜湘南道路に乗り降りするインターチェンジに接続する関連街路（上郷公田線、田谷線、横浜藤沢線、環状3号線）の整備を進めます。



①栄IC・JCT下部工事  
 （栄区田谷町）  
 平成29年11月



②公田地区掘割試験工事  
 （栄区公田町）  
 平成29年11月



③釜谷JCT Cランプトンネル工事  
 （金沢区釜谷町）  
 平成29年11月

コラム② 圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について



圏央道は、都心から半径約40～60km、延長約300kmの高規格幹線道路で、全線の約9割が開通しています。

本道路の順次開通等により、都心から圏央道へ交通が転換しており、首都圏の物流が大幅に改善するとともに、大型物流施設等の民間投資も誘発しています。

圏央道の西側区間で、唯一の未開通区間である横浜環状南線と横浜湘南道路についても、早期開通に向けて、事業を推進します。

図面：「よこかんみなみHP」（東日本高速道路株式会社）資料を加工し作成

## 2 市内道路ネットワークの充実

### (1) 都市計画道路等の整備【一部再掲】

57億5164万円（56億4384万円）

市域の一体性を高めながら都市機能の強化を図るため、都市計画道路等の整備を進めます。

- ・六角橋線【神大寺地区】（神奈川区）
- ・汐見台平戸線【別所地区など5地区】（南区・港南区・磯子区）【一部新規】
- ・鴨居上飯田線【本宿二俣川地区】（旭区）
- ・金沢シーサイドライン（金沢区）（30年度新駅舎完成、単線暫定供用予定）
- ・泥亀釜利谷線【寺前地区】（金沢区）【新規】
- ・宮内新横浜線【新吉田高田地区】（港北区）
- ・東京丸子横浜線【綱島地区】（港北区）【新規】
- ・環状3号線【戸塚地区、南戸塚地区、汲沢地区】（戸塚区）
- ・桂町戸塚遠藤線【上倉田戸塚地区】（戸塚区）など44箇所

### (2) 国道の整備

12億3766万円（13億1734万円）

本市の道路ネットワークの骨格を担う国道の改良を進めます。

- ・国道1号【保土ヶ谷橋工区】（保土ヶ谷区）
- ・国道1号【不動坂交差点】（戸塚区）
- ・国道16号、国道357号電線共同溝整備（国直轄事業）など

## コラム③ ～京浜急行金沢八景駅と繋がります 金沢シーサイドライン延伸工事～

新駅舎建築工事が本格化

金沢八景駅周辺の進捗状況



橋梁工事が完了し新駅舎の建築工事が本格化(平成30年3月)



南側上空より見た金沢八景駅周辺(平成30年3月)

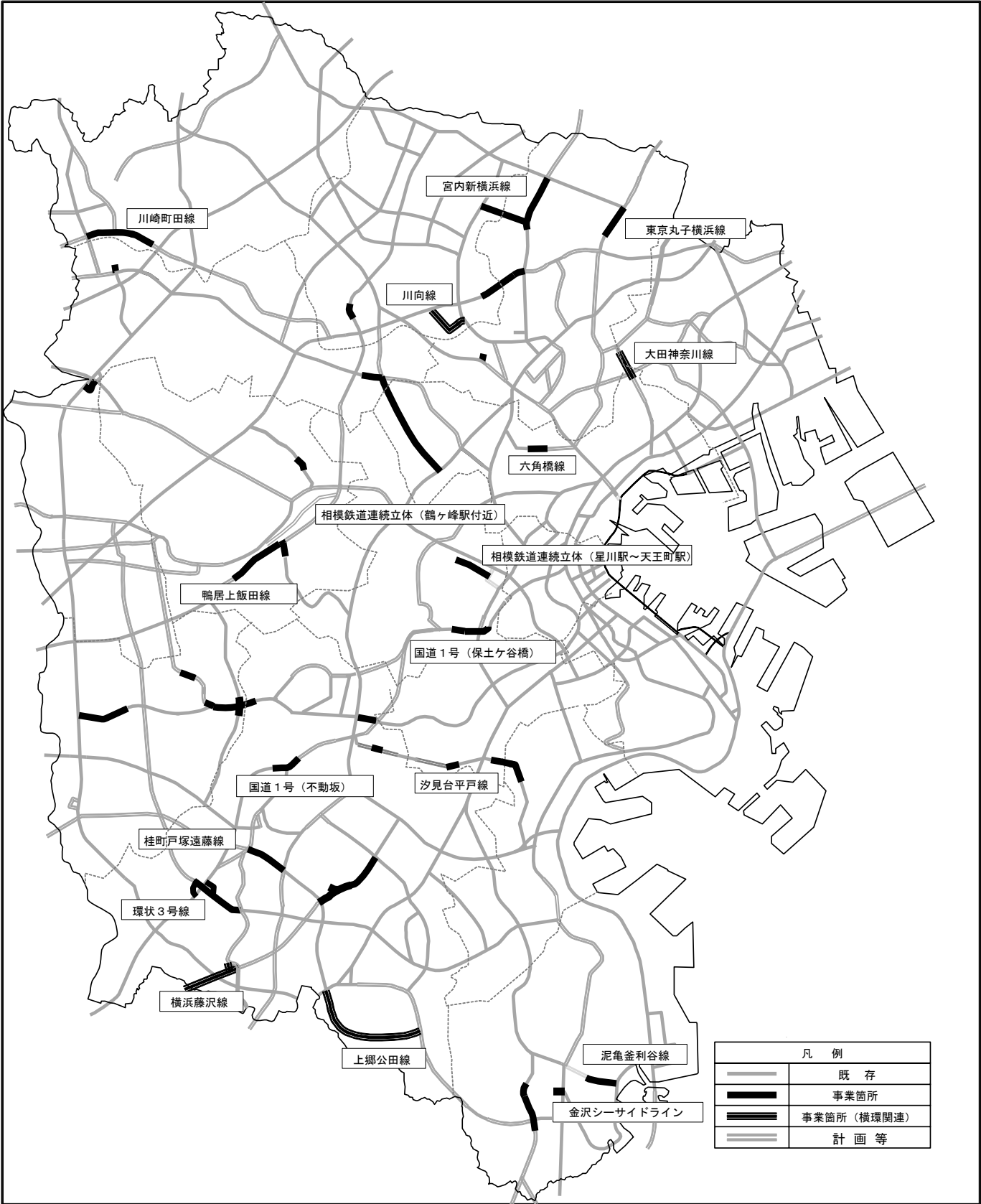
## コラム④ 東京丸子横浜線【綱島地区】の整備について

都市計画道路東京丸子横浜線は、本市と東京・川崎方面を結んでおり、また第1次緊急輸送路にも位置付けられている重要な幹線道路です。現道は2車線で歩道も狭い状況であるとともに、神奈川東部方面線（仮称）新綱島駅の整備が進んでいることから、30年度より綱島駅から北綱島交差点までの区間について、拡幅整備を進めます。



現在の綱島街道の様子

# 主 な 事 業 箇 所



(3) 連続立体交差事業

32億3182万円 (23億2247万円)

都市内交通の円滑化や都市の活性化を図るため、連続立体交差事業を進めます。

ア 相模鉄道本線 (星川駅～天王町駅) 連続立体交差事業 (保土ヶ谷区)

30億7200万円 (22億1567万円)

全線高架化は平成30年秋を予定しています。また、周辺の道路整備に向けた設計を行います。(29年3月の下り線高架化により、渋滞が大幅に解消されました。)

【実施区間：星川駅～天王町駅 約1.9km】  
【踏切除却数：9箇所 (すべて開かずの踏切)】



事業着手前



下り線高架化後

イ 相模鉄道本線 (鶴ヶ峰駅付近) 連続立体交差事業 (旭区)

1億5982万円 (1億680万円)

平成30年1月に、連続立体交差化の構造形式について、鉄道を地下化する方式を採用することとしました。30年度に国から着工準備採択を受けたため、事業化に向けた都市計画決定・環境影響評価の手続きや国との協議を5年を目途に進めていきます。

【事業区間：西谷駅～二俣川駅 約2.7km】  
【踏切除却数：10箇所 (うち開かずの踏切5箇所)】



踏切遮断による周辺道路渋滞状況(鶴ヶ峰2号踏切)

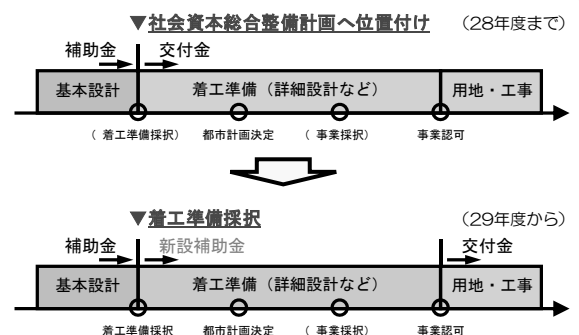


踏切(通学路)横断状況(鶴ヶ峰5号踏切)

コラム⑤ 着工準備採択とは？

28年度までは、基本設計等を実施後、自治体が社会資本総合整備計画に位置付け、交付金により着工準備を進めてきました。

しかし、着工後に事業が長期化する事例が多くあったことから、29年度からは国が着工準備採択した案件に限って補助金を配布し、着工準備段階から国が積極的に関与して円滑な事業進捗を後押しすることになりました。



## コラム⑥ 都市計画道路の整備について

道路の混雑状況を示す指標である混雑度は、大都市の中で最も高くなっており、市内の道路は他の大都市と比較して、いまだ混雑している状況にあると言えます。

都市計画道路の整備は、渋滞の緩和に加え、生活道路からの通過交通の排除、防災力の強化などを図る上で、極めて重要ですが、本市の都市計画道路の整備率は大都市の中でも低い水準にあります。

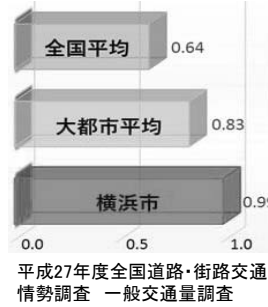
このため、現在事業中の路線の着実な整備や、道路ネットワークとして必要性の高い未着手の路線（優先整備路線）の事業着手に向けた検討を進めていきます。

大都市(政令指定都市と東京都特別区の21都市)の都市計画道路進捗状況

順位	都市名	整備率(%)
1	札幌市	96.3
2	名古屋市	93.7
3	神戸市	93.5
4	福岡市	88.4
5	大阪市	84.8
～		
17	岡山市	74.1
18	浜松市	69.4
19	新潟市	69.2
20	横浜市	67.5
21	さいたま市	64.5

平成27年度都市計画年報

平日の混雑度



## コラム⑦ ～平成29年度中に開通（完成）!!～

市民生活や横浜経済を支える強靱な都市基盤を構築し、安全・安心で愛される道路・河川空間づくり、災害に強いまちづくりを進めています。

### <瀬谷区>

★市道上瀬谷  
第368号線外1  
(瀬谷団地連絡道路)  
【開 通】  
平成30年3月  
延長：290m  
幅員：15m



### <神奈川区>

★新浦島橋  
【開 通】  
平成30年1月  
橋長：49m  
幅員：13m



### <西区・神奈川区>

★鶴屋橋  
【開 通】  
平成29年9月  
橋長：25m  
幅員：16m



### <保土ヶ谷区>

★JR岩間川橋梁  
及び金沢橋  
【完 成】  
平成30年3月  
橋長：61m  
幅員：9m



### <磯子区>

★天神橋  
【開 通】  
平成30年3月  
橋長：30m  
幅員：16m



### <泉区>

★権太坂和泉線  
(和泉地区)  
【開 通】  
平成30年3月  
延長：1,070m  
幅員：25m



### <戸塚区>

★市道戸塚  
第420号線  
(新宮之谷ソソ礼)  
【開 通】  
平成30年1月  
延長：170m  
幅員：13m



凡 例	
	既存
	事業箇所
	事業箇所(横環関連)
	計画等(都計道)

(4) 道路改良【一部再掲】

22億288万円（23億3561万円）

市民生活やバス交通の利便性の向上を図るため、歩道設置や交差点改良によるボトルネックの解消等、市民生活に密着した道路改良事業を進めます。

- ・市道市場第197号線（鶴見区）【新規】
- ・県道青砥上星川【上菅田町地区】（保土ヶ谷区）
- ・市道上白根第99号線【白根六丁目地区など3地区】（旭区）
- ・市道谷津第232号線（金沢区）
- ・市道北八朔南部第387号線【三保町地区（その2）】（緑区）
- ・市道矢部第281号線（戸塚区）
- ・県道阿久和鎌倉【萩丸交差点】（泉区）など63箇所



市道北八朔南部第387号線  
【三保町地区（その2）】（緑区）  
当該道路を拡幅することにより、車両交通の円滑化、歩行者の安全性向上を図ります。



市道矢部第281号線（戸塚区）  
当該道路を拡幅することにより、歩行者の安全性向上を図ります。

コラム⑧ 渋滞対策について

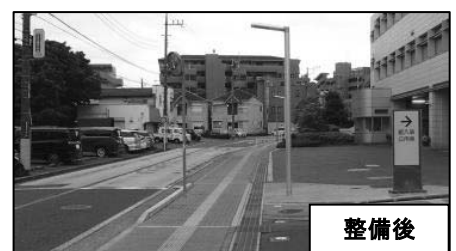
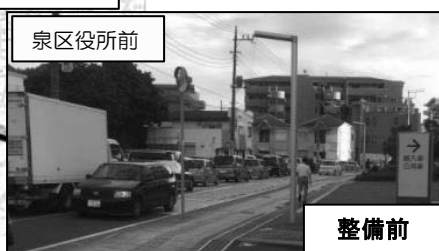
市内には多くの渋滞箇所があり、国や市などからなる「神奈川県移動性向上委員会」が自動車から得られる走行データ、いわゆるプローブデータを用いて把握した主要渋滞箇所だけでも142箇所あり、うち本市が管理する道路では99箇所になります。右折レーンの設置などの道路改良や都市計画道路の整備による道路ネットワークの強化により、旅行速度を改善させ、渋滞の解消を図っています。



都市計画道路権太坂和泉線（和泉地区）が平成30年3月に供用を開始したことにより、道路のネットワーク化が強化され、周辺道路の渋滞が解消しました。特に、主要地方道横浜伊勢原線や市道上飯田92号線の泉区役所付近での渋滞が解消しました。

※道路利用者などからのご意見

- 【泉消防署から】
  - ・消防署前の渋滞が解消され、緊急時の出動がスムーズになった。
  - ・上飯田方面への緊急時のルートを選択肢が増えた。
- 【バス事業者から】
  - ・道路が広くなり、安全に運転することができるようになった。
  - ・上飯田町方面へのバスルートが変更になり、バスの定時性が高まった。
- 【泉区役所付近にお住まいの方から】
  - ・通行車両が減り、騒音が減少した。
  - ・地域住民宅からの車両の出入りが容易になった。
  - ・渋滞が減り、抜け道を通る車両が減った。



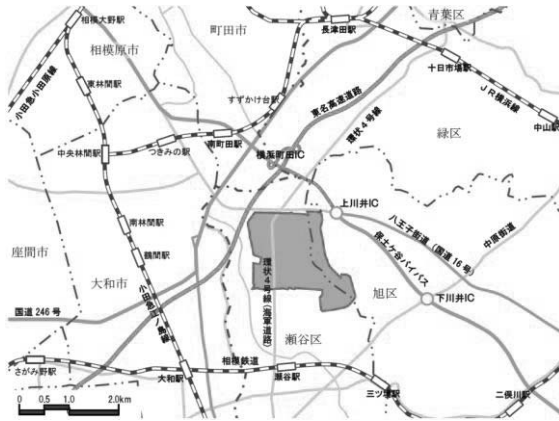
### 3 米軍施設返還跡地関連道路の検討

#### (1) 旧上瀬谷通信施設土地利用関連道路計画検討

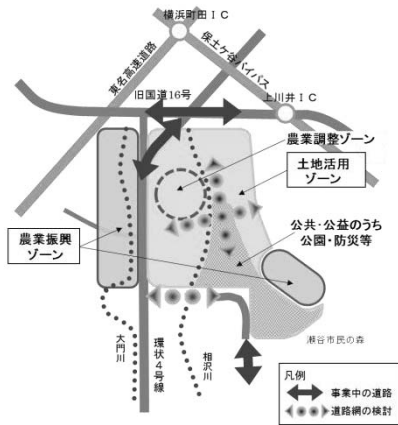
1000万円（1000万円）

旧上瀬谷通信施設（平成27年6月返還）では、民有地の地権者との土地利用検討とともに、国際園芸博覧会の招致に向けた検討も進められています。

道路計画では、跡地周辺の道路の現況や将来の土地利用計画を踏まえながら、地区内の道路や周辺幹線道路の検討を進めます。



旧上瀬谷通信施設の位置と道路交通基盤の状況



横浜市が提案した跡地利用ゾーン(案)(平成29年4月)

#### 国際園芸博覧会イメージ

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会基本構想(素案)から抜粋

**展開の考え方**

2017年 成果の継承 参加意識の盛り上げ  
2026年 国際園芸博覧会の開催 理念継承 レガシー展開

未来へ博覧会を遺した提案・まちづくり

- 観光・交通人口の増加と都市ブランドの向上
- 郊外部の活性化拠点の形成
- ガーデンシティのさらなる展開
- 市民力の向上と地域経済の活性化
- 花や緑、農を活かした先導的な地域づくり 等

**Garden City Yokohama**

横浜における時間軸の例

世界や日本の観習 多くの人々や世界の花と緑が集結 共有・交流・発信

日本各地の観光資源 農との連携

横浜 18区連携 市民交流 観光資源 産業経済 まちづくり

展示や行事、活動が重なり続けるイメージ

展示 屋外 展示 行事

周辺の緑や農との連携

**事業展開のイメージ**

**持続的な未来社会と博覧会を支えるグリーンインフラ**  
自然の持つ多様な機能を活用し、持続可能で魅力・活力ある地域づくりや心身の健康増進と、継続的な環境創造・負荷軽減を進めます。

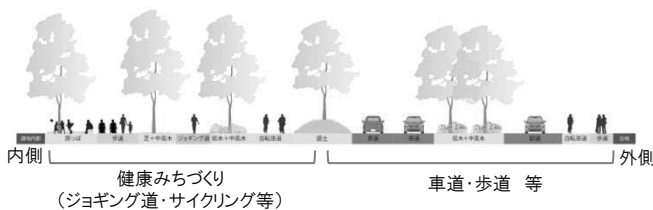
開催場所	旧上瀬谷通信施設	入場者規模	1,500万人以上を想定
開催期日	2026年4月～9月	開催組織	国が認定する法人等
会場規模	80～100haを想定		

#### (2) 旧深谷通信所跡地利用関連道路計画検討

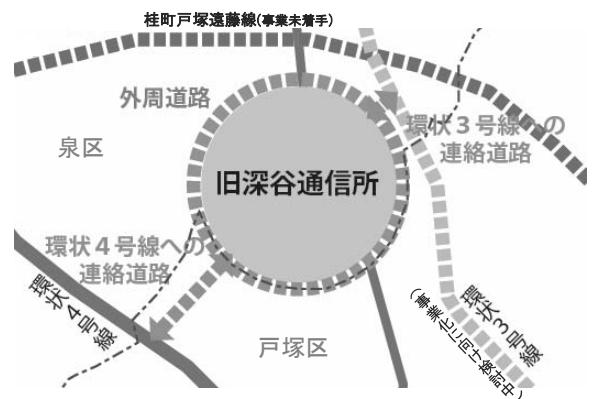
2000万円（2000万円）

旧深谷通信所跡地（平成26年6月返還）において、跡地利用計画を踏まえ、健康みちづくりにも寄与する外周道路及び環状3号線・4号線との連絡道路について検討を進めます。

#### <外周道路イメージ>



#### <検討位置図>



## Ⅱ 市民生活の安全・安心の確保

～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

### 1 防災・減災対策

(1) 地震対策（橋梁・歩道橋） 4億5210万円（8億3000万円）

ア 橋梁の地震対策 2億7800万円（6億3000万円）

阪神・淡路大震災における被害を踏まえ、緊急輸送路上にある橋や鉄道や高速道路を跨ぐ橋等から優先的に倒壊や甚大な被害を防止する対策を進めています。また、それ以外の場所に架かる橋梁についても地震対策を進めます。

(ア) 重要橋梁（緊急輸送路上の橋、跨線橋など）

- ・耐震補強 万里橋（西区）
- ・架替え かたぶき人道橋（金沢区）

(イ) 一般橋梁（重要橋梁以外の橋）

- ・耐震補強 安善橋（鶴見区）  
富士見橋（神奈川区）  
樽綱橋（港北区）



架替え工事が完成した新浦島橋（神奈川区）

イ 歩道橋の地震対策 1億7410万円（2億円）

緊急輸送路上の歩道橋から優先して、耐震補強を進めます。

- ・本村ランプ西口歩道橋（旭区）
- ・六浦歩道橋（金沢区）
- ・三ツ境歩道橋（瀬谷区）



落橋防止装置：西町歩道橋（磯子区）

### コラム◎ 地震に強い都市づくりの推進

災害時の消火活動や救助活動、緊急物資の輸送機能確保のため、緊急輸送路となる高速道路や18m（4車線相当）以上の幹線道路の整備を進めます。

また、橋梁の耐震補強や架替え、歩道橋の耐震補強、無電柱化の推進などにより、緊急輸送路の地震対策を進めます。

橋脚巻き立て等の耐震補強工事が完了した夕照橋（金沢区）





## (2) 無電柱化推進事業

7億5587万円（4億8300万円）

発災直後の応急対応に寄与する路線として、緊急輸送路、とりわけ無電柱化路線の環状形成に資する3路線（環状2号線、山下本牧磯子線、鶴見溝ノ口線）や、区役所へのアクセス道路などを優先して、電線共同溝の整備を進めます。また、国の動向を踏まえつつ「横浜市無電柱化推進計画」を策定します。

### ア 緊急輸送路

- ・環状2号線【駒岡・上末吉地区】（鶴見区）
- ・山下本牧磯子線【新山下地区】（中区）
- ・山下本牧磯子線【原町地区】（磯子区）
- ・鶴見溝ノ口線【市道下末吉第161号線】（鶴見区）（平成30年度完成予定）
- ・横浜上麻生線【市ケ尾地区】（青葉区）など7路線18地区

### イ 区役所へのアクセス道路

- ・港南区役所、南区役所、金沢区役所、栄区役所、青葉区役所  
（横浜上麻生線【市ケ尾地区】再掲）

無電柱化の状況(山下本牧磯子線【西町地区】、平成29年度完成)



整備前



整備後

## コラム⑩ 無電柱化の推進に向けた取組

### ■「道路法第37条に基づく緊急輸送路における新たな電柱の占用制限」施行（平成29年4月1日）

道路法第37条の改正に伴い、地震等の災害が発生した場合における緊急輸送路や避難路としての機能を確保するため、区域を指定して新たな電柱の占用制限を全国に先駆け開始しました。

対象区域：第1次緊急輸送路の全線など  
約220km

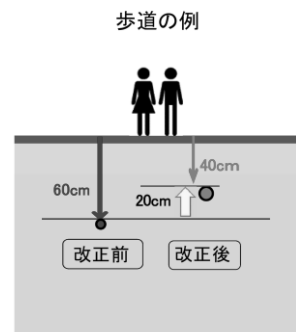
### ■「無電柱化推進計画（仮称）」の策定

以下の観点から、無電柱化を推進する路線等を検討しています。今後、関係事業者の意見や国の動向を踏まえつつ、推進計画をとりまとめます。

- 都市の防災力の向上の観点  
緊急輸送路や区役所、土木事務所等へのアクセス路
- 良好な都市景観形成や観光振興の向上の観点  
都心部や主要な観光地の道路
- その他、道路の新設や改築、市街地開発事業が実施される場合は、無電柱化に取り組む。

### ■「道路占用許可基準の改正による電線類の埋設深さの基準緩和」施行（平成29年4月1日）

国が緩和した電線等の埋設に関する基準を参考に、本市道路占用許可基準を改正し、埋設深さを従来に比べ20cm浅くすることで事業コストの縮減を図ります。



### □「無電柱化の推進に関する法律」施行（平成28年12月）

国等の責務を定めるほか、国に無電柱化推進計画の策定を義務付け、都道府県市町村には策定を努力義務にするなど、無電柱化に関する施策を迅速に推進することとしています。

(3) 河川整備

22億2156万円 (21億3362万円)

治水安全度の向上を図るため、河川改修や流域貯留施設の整備などによる総合的な治水対策をより一層推進します。また、整備完了までには時間を要するため、道路事業や下水道事業と連携し減災効果を高める暫定対策等も進めます。

ア 都市基盤河川改修事業

19億3236万円 (18億3605万円)

- ・今井川 護岸改修 (保土ヶ谷区権太坂一丁目、岩井町)
- ・帷子川 学校橋架替え、用地取得 (旭区上川井町、川井本町)
- ・阿久和川 慶林橋架替え (泉区新橋町)
- ・和泉川 新幹線下の護岸改修、橋梁架替え (泉区和泉町、瀬谷区二ツ橋)
- ・宮川 待橋架替えの設計 (金沢区釜利谷東七丁目) など10河川



学校橋の浸水状況  
(帷子川：旭区上川井町)



新幹線下の護岸改修  
(和泉川：泉区和泉町)

イ 準用河川改修事業

2億7500万円 (2億8337万円)

- ・準用日野川 護岸改修 (港南区日野七丁目)
- ・準用舞岡川 護岸改修 (戸塚区舞岡町) など3河川

ウ 流域貯留浸透事業

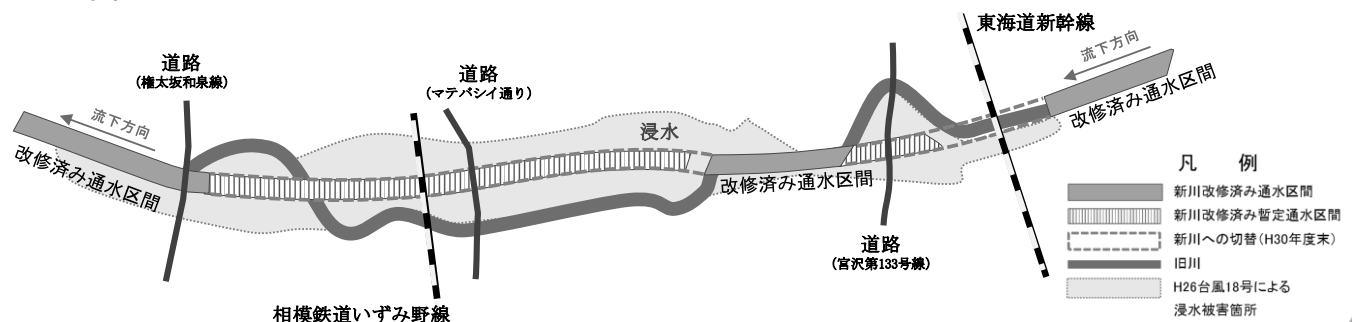
1420万円 (1420万円)

- ・中山小学校 雨水貯留施設の設計 (緑区中山町) など

コラム⑪ 和泉川改修事業 平成30年度末全川通水へ！

和泉川は昭和46年から河川改修を進めていますが、未整備箇所が残り、平成26年台風18号の被害が発生しています。少しでも被害を軽減するために、13,000㎡の河道貯留や暫定通水等の対策を行いながら、重点的に河川改修を進めています。

30年度には東海道新幹線下から権太坂和泉線までの区間が通水することで、和泉川全川の治水安全度が向上します。



# 主な事業箇所



護岸改修  
(今井川：保土ヶ谷区岩井町)

雨水貯留施設的设计  
(中山小学校：緑区中山町)

学校橋架替え  
(帷子川：旭区上川井町)

用地取得  
(帷子川：旭区川井本町)

橋梁架替え  
(和泉川：瀬谷区二ツ橋)

新幹線下の護岸改修  
(和泉川：泉区和泉町)

慶林橋架替え  
(阿久和川：泉区新橋町)

護岸改修  
(準用舞岡川：戸塚区戸塚町)

護岸改修  
(準用日野川：港南区日野七丁目)



待橋架替えに伴う設計  
(宮川：金沢区釜利谷東七丁目)



凡例	
——	50mm/h整備完了 河川
----	50mm/h整備実施 河川
——	国・県管理河川
——	市管理河川
■	H26台風18号 浸水箇所

#### (4) 水防事業

2億5198万円(9458万円)

風水害や水難事故から市民の方々の安全を自助・共助により守るため、気象情報や河川に関する情報の発信などを行います。

##### ア 水防災情報システム

河川に設置した31箇所の水位計と24箇所の監視カメラ等の保守管理を行います。また、老朽化した機器の更新や通信回線の改良等、システムの再構築を実施します。

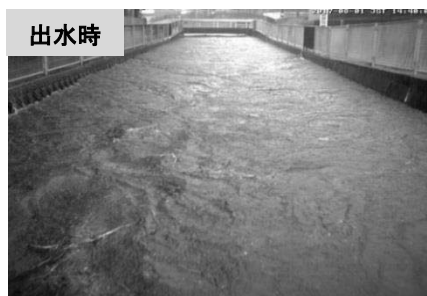
- ・機器の更新：水位計22箇所、監視カメラ19箇所

##### イ 親水拠点警報装置

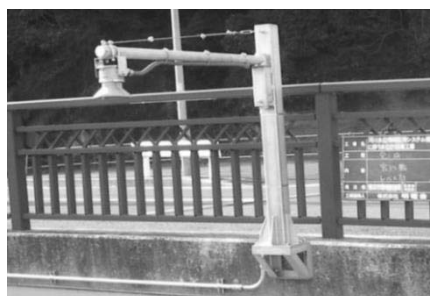
19箇所の親水拠点に設置されている、21基の警報装置の保守管理を行います。

##### ウ 水防資器材

洪水等による被害軽減のため、土木事務所で土のうや防水シート等、水防資器材の備蓄・整備を行います。



水防災情報システム 監視カメラ画像(瀬谷区:相沢川童橋)



水位計(金沢区:宮川)



親水拠点警報装置(栄区:いたち川扇橋の水辺)

#### コラム⑫ 神奈川県大規模氾濫減災協議会

「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指して！

平成27年9月の関東・東北豪雨では、鬼怒川の堤防が決壊し、広範囲かつ長時間の浸水が発生しました。これを踏まえ、国は、施設では守り切れない大洪水が必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会 再構築ビジョン」を策定し、国管理河川において、減災対策の取組を始めました。

28年8月の豪雨では、北海道や東北地方において、県等が管理する中小河川でも甚大な被害が発生したことから、神奈川県及び横浜市、関係市町村等は「神奈川県大規模氾濫減災協議会」を29年5月に設置し、30年1月には「県・本市管理河川の減災に係る取組方針」を策定しました。

この「取組方針」は、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目標とし、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に実施していくことを示しています。その中で、避難行動・水防活動等に資する基盤の整備として、水位計の更新など、水防災情報システムの再構築が位置付けられています。



会議の様子

### (5) 道路がけ防災対策事業

1億5600万円（1億7000万円）

道路を利用する市民の安全と交通機能確保のため、緊急輸送路やバス路線など重要な道路に面した箇所などについて、点検結果に基づく予防保全のための対策工事を進めます。

- ・ 鶴見区駒岡三丁目
- ・ 保土ヶ谷区権太坂三丁目
- ・ 保土ヶ谷区岩井町
- ・ 都筑区東方町
- ・ 泉区新橋町

磯子区岡村二丁目の対策



対策前



対策後

### コラム⑬ 延焼遮断帯の形成

大規模地震時における延焼被害の軽減を図るため、延焼範囲を分断する都市計画道路を整備するとともに、その沿道の建築物について不燃化を図り、延焼遮断帯を形成します。

- ※整備を進める都市計画道路  
六角橋線〔神奈川区〕、汐見台平戸線〔南区〕、  
泥亀釜利谷線〔金沢区〕



### コラム⑭ 災害時に備えて

災害時に備えて次の団体と防災協定を締結しており、横浜市総合防災訓練や道路局震災対策訓練を通じて連携を図っています。

- ・ (一社) 横浜建設業協会
- ・ (一社) 神奈川県建設業協会横浜支部
- ・ (一社) 神奈川県測量設計業協会
- ・ (一社) 横浜市地質調査業協会
- ・ (一社) 横浜市建設コンサルタント協会
- ・ (一社) 日本建設機械レンタル協会神奈川支部
- ・ 神奈川県レンタル業協会

また、緊急輸送路のリスク把握をはじめ、発災時に懸念される橋台背面等における段差を速やかに解消するため、軽量段差修正材など応急対策機材の配備に取り組んでいます。



道路啓開訓練（平成29年度横浜市総合防災訓練）

## 2 計画的な保全・更新・維持管理

### (1) 施設の老朽化対策

42億4969万円 (34億2844万円)

「横浜市公共施設管理基本方針」に基づき、各施設の長寿命化を図る保全計画等を策定し、メンテナンスサイクルにより効率的かつ効果的な維持管理・更新等を進めます。

#### ア 橋梁の老朽化対策 34億2811万円 (25億634万円)

本市が管理する道路橋の適切な維持管理を行うため、5年に1度行う近接目視による定期点検を進めるとともに、点検結果等を踏まえ策定する橋梁長寿命化修繕計画に基づき、損傷個所の補修や架替えなどを進めます。



近接目視点検：都橋(緑区)

(ア) 定期点検 345橋

(イ) 計画的な補修等

新子安橋(神奈川区)、烏帽子田橋(西区)、洋港橋(港南区)、第三和泉原橋(泉区)など75橋

(ウ) 老朽橋の架替え

末吉橋(鶴見区) (平成31年度～40年度 45億円 債務負担設定)

鶴見川に架かる末吉橋は、建設から60年以上が経過し、老朽化が著しいことから、川崎市と連携し30年度から架替工事に着手します。



末吉橋完成イメージパース

#### イ トンネル・地下道の補修 1億9209万円 (2億8309万円)

本市が管理するトンネル、地下道について、5年に1度の近接目視点検や、点検結果等を踏まえ策定する維持管理計画に基づく補修などを進めます。

(ア) 定期点検 38箇所

(イ) 計画的な補修 代官隧道(中区)、萩台トンネル(磯子区)など8箇所

#### ウ 歩道橋の老朽化対策 5億400万円 (5億1900万円)

(ア) 定期点検 60橋

(イ) 計画的な補修 港南台第四歩道橋(港南区)など11橋

(ウ) 化粧パネルの撤去

ポートサイド歩道橋(神奈川区)など3橋

(エ) 歩道橋の撤去 鶴見駅前歩道橋の一部(鶴見区) 菊名歩道橋(港北区)



化粧パネルの撤去：けやき通り歩道橋(西区)

#### エ 河川施設等の老朽化対策 1億2549万円 (1億2000万円)

(ア) 定期点検・調査 河川、護岸の老朽化、河床洗掘等調査

(イ) 計画的な補修 阿久和川(戸塚区)など3河川、ポンプ排水型遊水地の設備

(ウ) 保全計画策定 護岸構造物のある水路約80km

(2) 道路修繕 **100億6390万円** (99億5980万円)

舗装のわだち掘れ等、損傷が著しくなっている道路の計画的な修繕や緊急を要する舗装補修を進めます。

なお、年度末における道路の損傷や、災害等に対応する舗装補修（応急修理）工事と発注・施工時期の平準化の要請に対応する道路修繕工事のための債務負担行為を設定しました。



舗装修繕工事の状況

(3) 街路樹・植樹帯の管理 **16億5006万円** (14億4522万円)

樹木の大径化、老朽化に対応した街路樹の管理を進めます。

ア 剪定・刈込等 **14億2750万円** (13億6016万円)

街路樹及び植樹帯の植栽について、剪定や刈込等を進めます。

- ・街路樹 133,475本
- ・植樹帯 127ha

※これ以外に、みどり保全創造事業費会計の予算を活用し、街路樹剪定の充実を図ります。

イ 倒木対策 **1億131万円** (4796万円)

これまで進めてきたキノコが寄生しやすい8種類の街路樹の点検結果を踏まえ、経過観察等を必要とする樹木に対して引き続き樹木医による点検を行います。

- ・街路樹点検 5,000本

ウ 街路樹の再整備 **1億2125万円** (3710万円)

樹木の大径化や老朽化により、安全な通行に支障がある街路樹について、管理しやすい樹種への変更や適切な間隔での樹木の配置、植樹柵の改良など、道路空間や周辺環境に応じた街路樹の再整備を進めます。

- ・本牧通り、本牧桜道（中区）
- ・大岡川プロムナード（中区・南区）
- ・港南桜道（港南区）など11路線



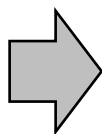
管理された並木



樹木医による点検実施状況



根上がり状況



再整備の例：港南桜道(港南区)

(4) 道路施設の管理 **34億2940万円** (31億338万円)

車道等の清掃及び道路照明灯やエレベーター等の保守・管理を行うとともに、道路施設の効率的な維持管理のために道路管理高度化システム（道路土木GIS）の整備を進めます。



車道の清掃

ア 道路等の清掃 **7億1157万円** (6億4057万円)

道路を常に良好な状態に保つため、車道、駅前広場等の施設について、清掃を実施します。

- ・車道 601km
- ・駅前広場 27駅 (31箇所)

イ 道路照明灯の管理 **2億7808万円** (1億円)

「水銀に関する水俣条約」への対応として、道路照明灯（水銀灯）のLED化を市内全域で進めます。

- ・61,000灯

ウ 道路標識の改善 **5000万円** (1200万円)

ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピックの競技会場周辺などにおいて、道路標識を外国人にもわかりやすいものとなるよう改善を進めます。

- ・横浜国際総合競技場周辺



道路標識の改善イメージ  
英語表記の改善、高速道路ナンバリングの追加

エ 路面下空洞調査 **2000万円** (2000万円)

道路陥没など突発的な道路の事故や被害を事前に防止するため、緊急輸送路やバス通りなどの幹線道路について、空洞探査車等を用いた路面下の空洞調査を実施します。

- ・幹線道路100km



空洞探査車による調査

オ その他 **23億6975万円** (23億3081万円)

- ・エレベーター（102基）、動く歩道などエスカレーター（59基）の管理
- ・みなとみらい、港北ニュータウン共同溝の維持管理
- ・道路台帳の管理、更新
- ・道路管理高度化システム（道路土木GIS）の道路施設情報の拡充
- ・認定路線の管理
- ・工事や維持管理に必要な品質確保のための技術基準の作成 など

コラム⑮ 水銀灯のLED化事業（水銀に関する水俣条約への対応）



水銀灯



LED灯

条約の発効により平成32年12月以降、高圧水銀ランプの入手が困難になることから、対象となる約26,000灯について高効率・長寿命であるLED照明器具への更新を進めます。

30年度はリース契約による一括調達で予算の平準化を図りながら、保守委託業務により交換作業を行うことで約6,000灯のLED化を実施予定です。



(5) 河川水路等施設の管理【一部再掲】 9億988万円（7億6497万円）

ア 現場の維持管理 8億4779万円（7億4629万円）

本市管理の一級・二級・準用河川及び雨水調整池、流域貯留浸透施設、水路などの維持管理を行います。また、護岸崩落の要因となる河床洗掘の調査を実施します。

- ・護岸、管理用通路、転落防止柵等の補修
- ・堆積土砂の浚渫
- ・除草、樹木等の除去
- ・ポンプ排水型河川遊水地の維持管理

水路護岸補修(戸塚区平戸町)



イ 占用物件・用地の管理 6209万円（1868万円）

河川・水路の占用許可などの事務を適正かつ迅速に行うために、占用システムを開発します。

- ・河川、水路の占用許可
- ・河川、水路占用システム開発
- ・水路用地払下げ

(6) 市営自動車駐車場の管理運営

9億9907万円（10億4984万円）【自動車駐車場事業費会計】

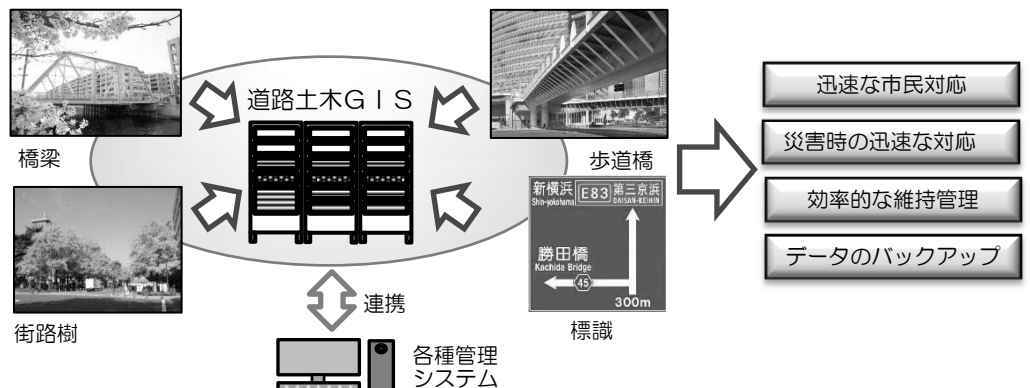
都心部における路上駐車対策として6箇所の駐車場の管理、運営を行います。

- ・福富町西公園地下駐車場
- ・ポートサイド地下駐車場
- ・馬車道地下駐車場
- ・山下町地下駐車場
- ・日本大通り地下駐車場
- ・伊勢佐木長者町地下駐車場

管理運営： 5億6516万円（5億248万円）  
公債費等： 4億3391万円（5億4736万円）

コラム⑩ 道路土木GIS（Geographic Information System）

災害時の迅速な対応や効率的な道路の維持管理をするために、カーナビゲーションなどに用いられるGISを活用し、橋梁、歩道橋、照明灯、標識などの道路施設の情報をデータベース化し一元的に管理しています。



## (7) 財源確保の取組

### ア 高架下等有効活用事業

道路高架下・道路予定区域等の未利用地を駐車場などとして活用することで占用料収入を確保します。

- ・活用箇所数：24箇所（平成29年度末現在）

青葉区田奈町の道路予定区域：駐車場



### イ 広告事業

道路施設・道路空間を広告事業によって有効活用し、維持管理財源を確保します。

- ・JR桜木町駅前広場イベントスペースの運営
- ・みなとみらい21地区における広告フラッグ掲出
- ・駅自由通路などの道路施設における広告掲出  
鶴見駅東西自由通路【新規】  
瀬谷駅南北自由通路【新規】

大船駅北口(笠間口)壁面



### ウ 歩道橋ネーミングライツ事業

歩道橋に愛称を命名することができる権利を売却し、その収入を歩道橋維持管理費等に充当します。

- ・鶴屋町クレインズ歩道橋

鶴屋町クレインズ歩道橋



### エ 道路事業用地の利活用

先行取得用地をはじめとする道路事業用地について、工事着手までの間の利活用を図ることで、その収入を都市計画道路事業の財源に充当します。

### オ 雨水調整池の有効活用

雨水調整池の上部空間を民間事業者に貸し付けることで、河川・水路等の維持管理費を確保する取組を進めます。

- ・野庭団地第一雨水調整池

野庭団地第一雨水調整池



### 3 誰もが安全・安心に利用できる道路空間

#### (1) 通学路安全対策事業【一部再掲】

25億2684万円（22億9544万円）

スクールゾーン対策協議会での点検などを踏まえ、歩行空間の確保やあんしんカラーベルトの整備など引き続き通学路の安全対策を重点的に推進します。

#### ア 歩道設置等

24億838万円（21億8198万円）

地域の方々や小学校と連携し、通学路における歩行空間の確保や自転車通行空間整備などの交通安全対策を推進します。

- ・市道平戸第486号線（南区）
- ・市道下田第97号線（港北区）【新規】
- ・市道新羽荏田線第7008号線（都筑区）
- ・市道宮沢第306号線（泉区）など70箇所



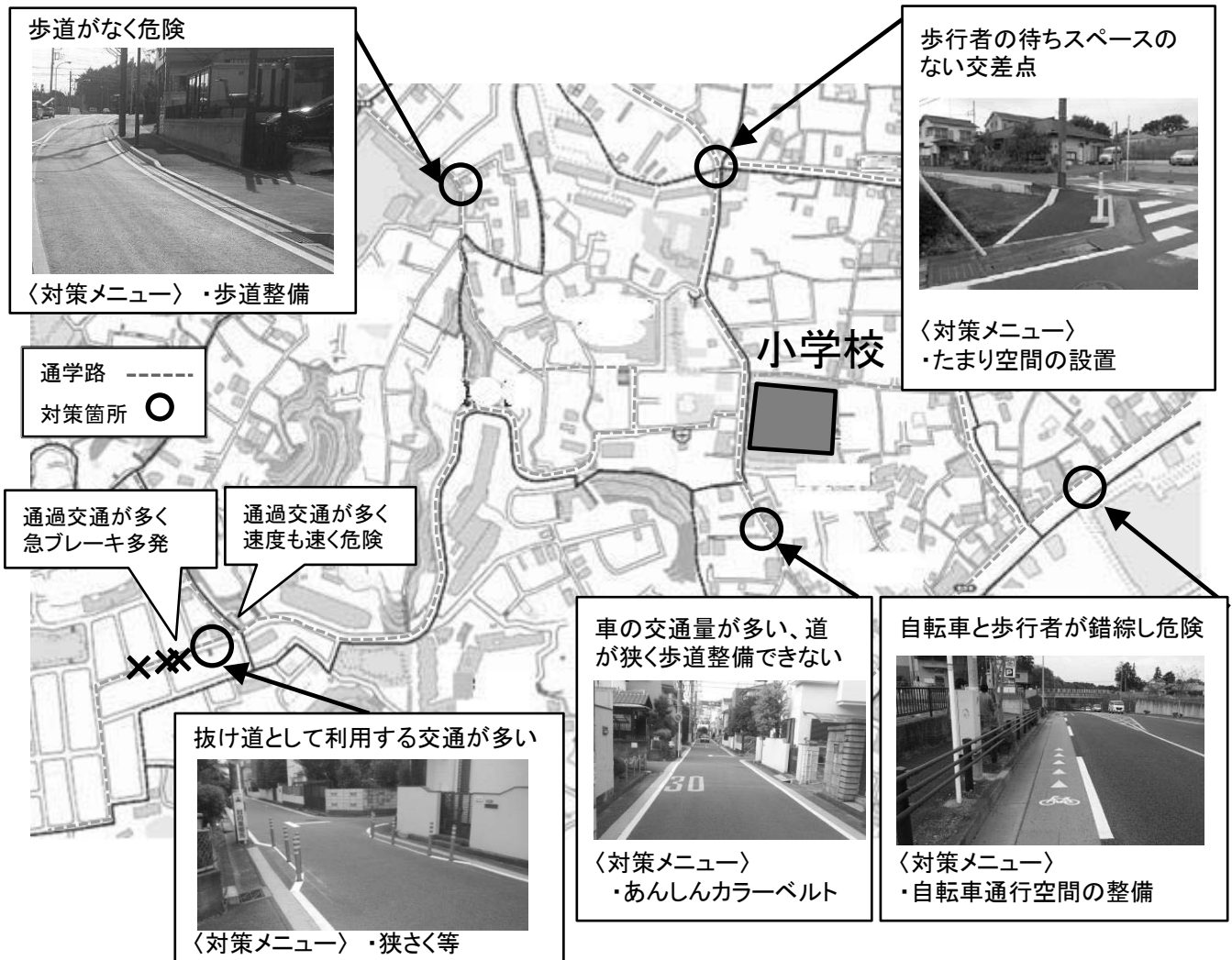
市道下田第97号線(港北区)

#### イ あんしんカラーベルトの整備

8100万円（8600万円）

歩道設置が困難な道路でも歩行者スペースを視覚的に認知でき、安全対策として効果がある「あんしんカラーベルト」の整備を推進します。（全18区）

### 通学路安全対策のイメージ



ウ 新たな対策手法の導入

2000万円（1000万円）

通学路をはじめとした生活道路において、港北区大倉山地区の社会実験を踏まえ、ビッグデータを活用した安全対策の検討や車両の走行速度を抑制する狭さくの設置など新たな対策手法の導入を他の地域でも進めます。

- ・ 緑園四丁目、五丁目（泉区）
- ・ 中山町（緑区）

エ 児童交通安全対策

1746万円（1746万円）

小学生を対象に歩行時、自転車乗車時のルールを指導教育する「はまっ子交通あんぜん教室」を開催します。

また、「スクールゾーン活動のしおり」「はたふり誘導ハンドブック」等を作成することにより、スクールゾーン協議会への活動を支援します。

(2) 踏切の安全対策（歩行者対策）

3億9000万円（4億3163万円）

「横浜市踏切安全対策実施計画」（平成28年3月）に基づき、跨線人道橋整備等の安全対策を進めます。

ア 跨線人道橋の整備

- ・ 生見尾踏切（鶴見区）
- ・ 樹源寺踏切（保土ヶ谷区）

イ 踏切拡幅

- ・ 古市場踏切（鶴見区）【新規】
- ・ 杉田第2踏切（磯子区）



生見尾跨線人道橋  
（鶴見区）

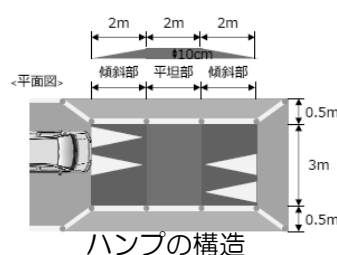
(3) 連続立体交差事業【再掲】

32億3182万円（23億2247万円）

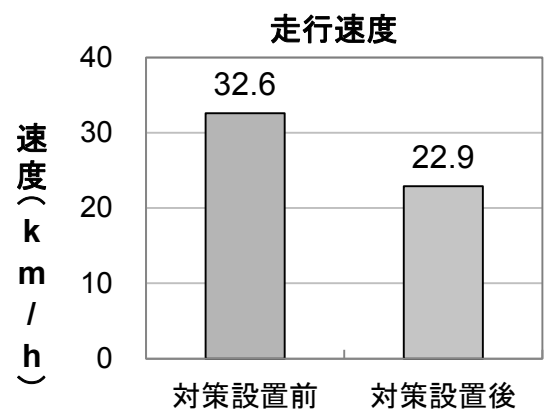
コラム⑰ ビッグデータを活用した交通安全対策

ETC2.0車載器に記録された運転データ（走行履歴や挙動履歴）を道路沿いに設置された通信施設を通じて国土交通省が収集し、急ブレーキが多発しているポイントや速度超過が多発している区間などを分析します。港北区大倉山地区においては、分析により速度超過区間が明らかになったため、道路の一部を高さ10cm盛り上げることなどにより、物理的に走行速度を低減させる実証実験を1か月間実施しました。

その結果、実験中は、走行速度がおおよそ時速10km減少するなど速度を抑制する効果が認められました。



ハンプの構造



社会実験の結果（ETC2.0の分析結果）  
対策前29年9月と対策後29年10月の比較

(4) 交通安全施設の補修

2億8579万円（4億3429万円）

防護柵、案内標識、道路照明灯等の補修を行うとともに、エレベーターについては経年や点検結果を踏まえ更新を実施していきます。



エレベーター撤去工事



更新後(かご内部)



更新後(外観)

(5) 私道対策

1億95万円（1億670万円）

市民が行う私道の舗装工事等への助成や、市民要望による私道整備を進めます。また、私道を公道に移管するための測量費等の助成を行います。



私道整備助成実施前



私道整備助成実施後

(6) 交通安全教育・啓発事業【一部再掲】

3535万円（3648万円）

交通事故件数及び死傷者数の減少を図るため、交通安全対策の総合的な実施計画を策定して交通安全教育や、各季の強化月間等に合わせた交通安全意識の普及・啓発活動などを関係機関・団体等と連携して行い、交通安全意識の高揚により交通事故抑止を図ります。

また、高齢運転者の交通事故抑止対策としては、実践型のシルバードライビングスクールのほか、ドライブレコーダーを活用した交通安全教室を実施します。



幼児交通安全訪問指導

### Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり

～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

#### 1 まちの利便性向上

##### (1) 歩行空間の改善・拡充

8億6544万円（7億3182万円）

##### ア バリアフリーの推進

1億5724万円（2億1682万円）

駅周辺のバリアフリー化を推進するため、バリアフリー法に基づく基本構想の検討・策定を進めます。

・戸塚区、保土ヶ谷区

また、基本構想を策定した地区から、歩道の段差改善等バリアフリー歩行空間の整備に向けた計画策定、及び、整備を進めます。

・十日市場駅周辺地区（緑区）

・戸塚駅、東戸塚駅、舞岡駅周辺地区（戸塚区）など12地区

##### イ 都心部の回遊性向上に資する歩行空間の拡充

1000万円【新規】

関内地区の回遊性確保に向け、歩行者動線や自転車ネットワークの強化に取り組みます。

現市庁舎と県庁とを結ぶ「みなと大通り」をモデルとして、歩道の拡幅や自転車通行空間の設置、イベントもできる魅力ある空間にするなど、シンボリックな空間として再整備するための検討を進めます。



##### ウ 大岡川横断人道橋の整備（平成31年度～32年度 12億円 債務負担設定）

6億8320万円（5億円）

JR及び地下鉄桜木町駅から、開発が進められている北仲通地区への歩行者交通量増加に伴う動線の確保と利便性の向上、みなとみらい21や関内等周辺地区との回遊性向上のため、平成32年度の供用開始を目指し、引き続き歩行者専用橋の工事を進めます。

##### エ 鶴見川中下流域の橋梁間隔短縮検討

1500万円（1500万円）

鶴見区「新鶴見橋～末吉橋」間、港北区「新羽橋～新横浜大橋」間について橋梁新設に向けて調査・検討を進めます。

##### (2) 交通結節点の整備

1億5600万円（1億7722万円）

##### ア 菊名駅バリアフリー化事業

1億2700万円（1億6722万円）

交通結節点の機能強化のため、平成25年度から菊名駅の東西通路及び乗換通路のバリアフリー化を

鉄道事業者と進めており、29年12月に供用開始しました。

30年度中の事業完了に向け、引き続き工事を進めます。



西口エレベーターおよび西口階段（新設）

##### イ 保土ヶ谷駅東口ほか駅前広場再整備 1900万円【新規】

バリアフリー化が課題となっている駅前広場において、エレベーター設置等の設計を進めます。

ウ 住み続けたいまち・みちづくり推進事業 1000万円（1000万円）

誰もが住み続けたいと思えるまちを目指して、駅周辺の利便性や魅力の向上につながるみちづくりの調査・検討を進めます。また「戸塚駅周辺地区住み続けたいまち・みちづくりプラン」の策定に向けた地域・事業者等との調整や、関連する事業を進めます。

(3) 自転車施策の総合的な推進【一部再掲】 23億8837万円（24億1780万円）

「横浜市自転車総合計画」に基づき、自転車利用のルール・マナーの周知、自転車通行空間の整備、駐輪環境の充実及び放置防止対策、自転車活用推進などの自転車施策を総合的に進めます。

ア 自転車総合計画の施策推進 6400万円（2900万円）

- ・ルールを学べる教育の機会の充実
- ・自転車と自動車の  
「思いやりSHARE THE ROAD運動」の実施
- ・モデル地区における「自転車通行空間整備実行計画」の策定
- ・新たな料金制度や民間のノウハウのさらなる活用についての検討
- ・自転車活用推進法を受けた自転車総合計画の見直し



イ 有料自転車駐車場の管理運営 16億817万円（16億1442万円）

- ・242箇所

ウ 自転車等放置防止対策 5億1270万円（5億3512万円）

- ・放置自転車の移動 115駅（全区）
- ・マナーアップ監視員による啓発等

エ 自転車駐車場の維持・補修 1億6600万円（2億2026万円）

- ・戸塚駅西口第十自転車駐車場（戸塚区）など

オ 自転車通行空間の整備 3750万円（1900万円）

- ・市道新羽荏田線（都筑区）など3箇所

## コラム⑱ 自転車駐車場附置義務制度の条例について

本市では、昭和60年に制定した「横浜市自転車等の放置防止に関する条例」に基づき、市営自転車駐車場（以下「駐輪場」といいます。）の整備や放置自転車の移動作業等を行い、駅周辺の駐輪状況は大きく改善されてきています。しかし、一部の地域では買い物などで集客施設を利用する方の放置自転車が課題となっています。

店舗等への来訪者が利用する駐輪場は、集客施設側で整備すべきですが、本市では一部を除き、集客施設に駐輪場の設置を義務付ける制度がなかったため、平成28年6月に策定した「自転車総合計画」で制度化を検討することとしてきました。

また、共同住宅についても、一部を除き駐輪場の設置を求める制度がなく、マンション等の周辺に自転車等が放置されている状況があります。

そこで、市民の生活環境の保全及び都市機能の維持を図り、良好な都市環境の形成に資するため、「横浜市自転車駐車場の附置等に関する条例」を制定し、平成30年4月1日から施行しています。

## 2 地域交通の確保に向けた取組

人口減少や超高齢社会の到来など社会情勢が変化する中で、市民の日常生活の利便性を確保するため、生活交通として必要なバス路線を維持するとともに、地域の主体的な取組による新たな移動手段の導入やバス路線の再編に向けた支援を進めていきます。

### (1) 地域交通サポート事業 1966万円（2460万円）

ア 地域が主体となった移動手段の確保に向けた取組への支援 1046万円（1860万円）  
新たなバス路線の導入及び再編の支援を進めます。

また、地域や事業者が取り組みやすい仕組みの構築を目指し、支援の拡充について検討します。

### イ 移動手段の確保に向けた新たな取組 920万円（600万円）

(ア) 地域の共助による移動手段の確保に向けた取組

実証運行の効果検証や、持続可能な運行に向けた制度の検討を進めます。

・山下地区（緑区） ・都田、池辺地区（都筑区）

(イ) 民間と連携した地域の移動手段の確保に向けた取組

病院や商業施設など、民間の主体が運行する送迎バスを地域の移動手段に活用する検討を引き続き進めていきます。

・すすき野地区（青葉区）



地域の共助によるボランティアバス



民間が主体となり運行する送迎バスの活用

(ウ) 今後の地域交通施策の検討

地域の移動に関する多様なニーズを踏まえ、効率的なバス路線の再編や乗合タクシーの導入等による地域交通の維持・充実に向けた検討を交通事業者と連携して進めます。

### (2) 生活交通バス路線の維持支援 3億8337万円（4億2764万円）

市民の日常生活の利便性を確保するため、生活交通として必要な16路線に対し補助金を交付し、バス路線を維持します。

#### コラム⑱ 地域交通サポート事業による取組

地域のニーズにあった交通手段の導入に向けて、地域の主体的な取組がスムーズに進むように、実現までの活動に対して様々な支援を行っています。取組を通じて、地域でバス路線を作る、守る意識が広がり、利用者が増え、持続可能なバス路線の整備につながっていきます。

この事業の活用により13地区でバス路線の新設・再編などが本格運行に至りました。現在は3地区で実証運行を実施、4地区で実証運行を目指して活動しています。



境木地区（保土ケ谷区）における実証運行開始の様子



### 3 まちの魅力創出

#### (1) 健康みちづくり推進事業

6520万円 (7950万円)

「健康みちづくり推進事業実施計画」に基づき、選定したプロムナード等において、舗装、案内サインやベンチの設置など、楽しみながら健康づくりに取り組める歩行空間の整備を進めます。

・西区、瀬谷区など8地区



平成29年度整備事例：神奈川区  
水と緑豊かな安らぎのルート



平成29年度整備事例：金沢区  
旧海岸線を感じながら、歴史・海・緑をめぐるルート



平成29年度整備事例：鶴見区  
広域版 横浜旧東海道ルート



平成28年度整備事例：緑区 旭区  
広域版 山と緑を感じる自然豊かなルート

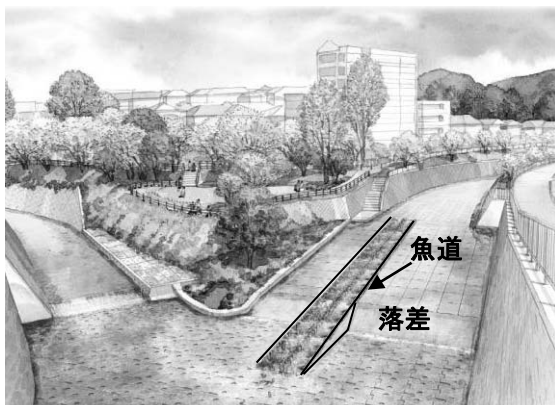
ベンチの設置にあたっては、「横浜サポーターズ寄附金」のメニューのひとつである「ハマサポベンチ」の募集を継続し、市民の皆様の寄附金を活用していきます。

#### (2) 河川環境の整備

1050万円 (3700万円)

帷子川において、アユが、より上流に生息域を拡大できるよう、鶴峰橋上流及び今川橋下流の2箇所魚道の整備を行います。

また、遡上先のアユの棲みやすい生息環境の改善に向け、市民協働のワーキングを通じて川づくりの計画を立案し、帷子川の魅力向上を図ります。



魚道整備のイメージ  
(帷子川：旭区今川町)



ワーキングの様子

(3) 市民協働による美化活動の推進

1944万円 (1949万円)

ア ハマロードサポーター

897万円 (903万円)

自治会・町内会、企業等の団体による市道の清掃、美化活動を支援します。

- ・支援団体 474団体
- ・支援内容 清掃用具、ごみ袋の支給
- ・全体交流会 8月予定  
永年活動表彰 など



ハマロード・サポーター全体交流会

イ 水辺愛護会活動支援事業

1047万円 (1046万円)

地域や有志の方々により構成された団体による河川や水辺施設の美化活動を支援します。

- ・支援団体 92団体
- ・支援内容 水辺環境の美化活動に対する補助
- ・交流会、永年活動表彰 など



水辺愛護会の活動



栄区水辺愛護会・ハマロードサポーターのつどい

コラム⑳ 水辺愛護会は平成29年に制度発足20周年を迎えました！

水辺愛護会は平成9年の制度発足から29年度で20周年を迎えたことから永年20年の11団体、永年10年の4団体について永年の労苦に報いるために表彰式を行いました。また、工夫を凝らした活動報告やいつまでもお元気に活動できるように、記念タオルを使用した体操を学ぶ講演会も合わせて開催しました。

今後も市民の皆様とともに水辺環境の維持管理に努めていきます。



水辺愛護会表彰式



活動報告



記念タオルを使用した講演会

# 平成30年度 道路局予算

( 単位: 千円 )

	30年度予算	29年度予算	増▲減額	増▲減率
一般会計	93,559,315	84,872,703	8,686,612	10.2%
12款 道路費	92,422,458	83,611,879	8,810,579	10.5%
1項 道路維持管理費	23,828,921	23,249,465	579,456	2.5%
1目 道路行政総務費	6,635,212	6,552,799	82,413	1.3%
2目 道路用地整理費	64,195	70,725	▲ 6,530	▲ 9.2%
3目 道路台帳整備費	258,610	252,921	5,689	2.2%
4目 道路等管理費	2,910,339	2,664,633	245,706	9.2%
5目 道路等維持費	11,763,165	11,461,477	301,688	2.6%
6目 交通安全・自転車政策推進事業費	2,197,400	2,246,910	▲ 49,510	▲ 2.2%
2項 道路整備費	65,076,960	57,188,499	7,888,461	13.8%
1目 交通安全施設等整備費	760,414	761,263	▲ 849	▲ 0.1%
2目 交通輸送対策費	185,533	203,124	▲ 17,591	▲ 8.7%
3目 道路特別整備費	9,955,640	9,538,574	417,066	4.4%
4目 街路整備費	42,662,674	34,160,923	8,501,751	24.9%
5目 高速道路等整備費	2,258,699	3,270,615	▲ 1,011,916	▲ 30.9%
6目 道路費負担金	9,254,000	9,254,000	0	0.0%
3項 河川費	3,516,577	3,173,915	342,662	10.8%
1目 河川管理費	1,172,327	878,013	294,314	33.5%
2目 河川整備費	2,344,250	2,295,902	48,348	2.1%
17款 諸支出金	1,136,857	1,260,824	▲ 123,967	▲ 9.8%
1項 特別会計繰出金	1,136,857	1,260,824	▲ 123,967	▲ 9.8%
11目 自動車駐車場事業費会計繰出金	432,909	546,363	▲ 113,454	▲ 20.8%
13目 公共事業用地費会計繰出金	463,713	447,533	16,180	3.6%
18目 自動車事業会計繰出金	240,235	266,928	▲ 26,693	▲ 10.0%

( 単位: 千円 )

	30年度予算	29年度予算	増▲減額	増▲減率
特別会計 自動車駐車場事業費会計	999,069	1,049,843	▲ 50,774	▲ 4.8%
1款 自動車駐車場事業費	999,069	1,049,843	▲ 50,774	▲ 4.8%
1項 運営費	565,160	502,480	62,680	12.5%
1目 自動車駐車場運営費	565,160	502,480	62,680	12.5%
2項 公債費	432,909	546,363	▲ 113,454	▲ 20.8%
1目 元金	409,422	505,744	▲ 96,322	▲ 19.0%
2目 利子	23,425	39,415	▲ 15,990	▲ 40.6%
3目 公債諸費	62	1,204	▲ 1,142	▲ 94.9%
3項 予備費	1,000	1,000	0	0.0%
1目 予備費	1,000	1,000	0	0.0%

1	平成30年度 道路局予算 道路行政総務費		道路行政全般にかかる諸経費の支出を行います。
	本年度	千円 6,635,212	
	前年度	6,552,799	
	差引	82,413	
本年度の財源	国・県 支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	12	
	市債	0	
	一般財源	6,635,200	
			<p><b>1 職員人件費</b> 6,598,172千円 (6,512,273)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般職 771人、再任用職員 59人</li> </ul> <p><b>2 技術監理費</b> 11,313千円 (12,570)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労務・資材費調査委託費及び技術研修等にかかる経費</li> </ul> <p><b>3 総務管理費等</b> 25,727千円 (27,956)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・局内の事務費集約にともなう消耗品費及び庁用備品費等</li> </ul>

2	(12款1項2目) 道路用地整理費		私道から公道に移管するために必要となる測量費及び公図訂正をするための測量費を助成します。
	本年度	千円 64,195	
	前年度	70,725	
	差引	▲ 6,530	
本年度の財源	国・県 支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	18	
	市債	0	
	一般財源	64,177	
			<p><b>1 公道移管助成費等</b> 51,745千円 (61,595)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公道移管測量費助成金</li> <li>・公図混乱地域内測量費助成金</li> </ul> <p><b>2 路線管理システム及び 財産管理システム費</b> 1,332千円 (1,332)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの運用・保守等にかかる経費</li> </ul> <p><b>3 認定路線管理費</b> 11,118千円 (7,798)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案参考図作成委託費等</li> </ul>

3	平成30年度 道路局予算 道路台帳整備費		<p>道水路等境界調査及び、道路法に定められている道路台帳の整備等を行います。</p> <p><b>1 道水路等境界調査費</b> 83,437千円 (92,381) ・道路及び水路等と民有地との境界を確定する経費</p> <p><b>2 道路台帳整備費</b> 175,173千円 (160,540) ・道路台帳整備のための測量・調査費等</p>
	本年度	千円 258,610	
	前年度	252,921	
	差引	5,689	
本年度の財源	国・県 支出金	0	
	使用料	34,177	
	諸収入等	1,961	
	市債	0	
	一般財源	222,472	

4	(12款1項4目) 道路等管理費		<p>歩行者と車両の安全な交通を確保するため、道路の適切な管理を行います。</p> <p><b>1 道路管理事業費</b> 158,074千円 (177,898) ・道路占用・掘削許可、貸付地管理、道路原因事故の賠償等</p> <p><b>2 道路管理システム運用事業費</b> 100,431千円 (100,510) ・道路管理システムの運用</p> <p><b>3 ハマロード・サポーター事業費</b> 8,970千円 (9,028) ・ハマロード・サポーターの活動支援</p> <p><b>4 道路清掃費</b> 711,570千円 (640,570) ・道路、駅前広場等の清掃</p> <p><b>5 道路照明費</b> 1,244,365千円 (1,181,485) ・道路照明灯の維持管理</p> <p><b>6 エレベーター等管理費</b> 450,642千円 (423,510) ・エレベーター・エスカレーター等の維持管理</p> <p><b>7 共同溝管理費</b> 217,445千円 (111,165) ・みなとみらい2 1及び港北ニュータウン共同溝の維持管理</p> <p><b>8 自由通路管理費</b> 17,875千円 (19,500) ・大船駅北口等の自由通路の維持管理</p> <p><b>9 高架下等有効活用事業費</b> 967千円 (967) ・検討会運営費等</p>
	本年度	千円 2,910,339	
	前年度	2,664,633	
	差引	245,706	
本年度の財源	国・県 支出金	5,500	
	使用料	1,731,326	
	諸収入等	263,800	
	市債	0	
	一般財源	909,713	

5	平成30年度 道路局予算 道路等維持費		道路の安全を維持するために道路の修繕を行うほか、街路樹の維持管理を行います。
	本年度	千円 11,763,165	
	前年度	11,461,477	
	差引	301,688	
本年度の財源	国・県 支出金	11,000	<b>1 道路修繕費</b> 10,063,904千円 (9,959,804) ・道路の計画的な修繕や緊急を要する舗装修繕等 ・舗装の補修時期に合わせた低騒音舗装の実施
	使用料	4,888,936	<b>2 私道対策事業費</b> 49,200千円 (49,200) ・私道整備助成、私道整備
	諸収入等	32,979	<b>3 街路樹管理事業費</b> 1,650,061千円 (1,445,216) ・街路樹及び植樹帯の維持管理 ・街路樹点検 ・街路樹保全のための改良工事
	市債	0	
	一般財源	6,830,250	

6	(12款1項6目) 交通安全・ 自転車政策推進事業費		各季の交通安全運動等や交通安全教育を行います。また、「自転車総合計画」に基づき、ルールやマナーの周知・啓発等を行うとともに、駅周辺の歩行者の通行、安全確保のため、自転車等放置防止対策及び自転車駐車場の管理運営等を行います。
	本年度	千円 2,197,400	
	前年度	2,246,910	
	差引	▲ 49,510	
本年度の財源	国・県 支出金	0	<b>1 放置自転車等移動・保管事業費</b> 388,964千円 (411,519) ・市内115駅周辺の放置禁止区域に放置された自転車の移動等 ・自転車総合計画に掲げた施策を推進するための調査検討
	使用料	2,097,042	<b>2 有料自転車駐車場運営事業費</b> 1,608,173千円 (1,614,417) ・市内242箇所、約99,000台の有料自転車駐車場の運営
	諸収入等	4,718	<b>3 自転車総合計画推進事業費</b> 144,911千円 (144,492) ・自転車総合計画に掲げた施策の推進 ・自転車マナーアップ監視員の配置 ・自転車の交通安全の周知、啓発及び教育
	市債	0	<b>4 民営施設整備助成費</b> 20,000千円 (40,000) ・民営自転車駐車場整備に対する補助
	一般財源	95,640	<b>5 交通安全推進事業費</b> 35,352千円 (36,482) ・交通安全実施計画の策定 ・交通安全の周知、啓発及び教育

7	平成30年度 道路局予算 交通安全施設等整備費		歩行者の安全と円滑な道路交通を確保するため、交通安全施設や安全で快適に移動できる歩行空間を整備します。
	本年度	千円 760,414	
	前年度	761,263	
	差引	▲ 849	
本年度の財源	国・県 支出金	0	
	使用料	173,930	
	諸収入等	188,428	
	市債	138,000	
	一般財源	260,056	
			<b>1 交通安全施設等整備費</b> 528,414千円 (492,000) ・歩道、防護柵、案内標識、道路照明灯等の施設の整備  <b>2 自転車駐車場等整備費</b> 186,000千円 (223,263) ・市営自転車駐車場の整備等  <b>3 あんしんカラーベルト事業費</b> 46,000千円 (46,000) ・通学路等における路側帯のカラー化

8	(12款2項2目) 交通輸送対策費		誰もが安心・安全に利用できる交通体系を実現するため、バス交通施策を推進します。また、駅周辺の重点的かつ一体的なバリアフリー化を推進していくため、バリアフリー基本構想の策定を進めます。
	本年度	千円 185,533	
	前年度	203,124	
	差引	▲ 17,591	
本年度の財源	国・県 支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	0	
	市債	0	
	一般財源	185,533	
			<b>1 横浜市生活交通バス路線維持支援事業等</b> 143,138千円 (160,710) ・生活交通バス路線の運行に関する補助金等  <b>2 地域交通サポート事業等</b> 26,660千円 (27,595) ・地域交通サポート事業検討業務委託費、 実証運行赤字補填費等 ・高齢者等移動支援バスモデル事業  <b>3 まちのバリアフリー化推進調査費等</b> 15,735千円 (14,819) ・基本構想策定業務委託費等

9	平成30年度 道路局予算 道路特別整備費	
	本年度	千円 9,955,640
	前年度	9,538,574
	差引	417,066
本年度の財源	国・県 支出金	3,831,161
	使用料	0
	諸収入等	464,013
	市債	3,222,000
	一般財源	2,438,466

幹線道路や歩道、電線共同溝の整備、踏切安全対策やバリアフリーの推進、橋梁の地震対策及び点検や老朽化対策などを実施します。

### 1 幹線道路の整備

- (1) 都市計画道路等の整備 1,235,732千円 (1,243,510)  
・上郷公田線 (公田地区：栄区) など
- (2) 国道の整備 253,493千円 (333,172)  
・国道1号 (不動坂交差点：戸塚区) など

### 2 地域の道路整備と交通施策

- (1) 道路改良の推進 1,738,244千円 (1,676,103)  
・市道宮沢306号線 (その2地区) (泉区) など
- (2) 踏切安全対策の推進 390,000千円 (431,628)  
・生見尾踏切 (鶴見区) など
- (3) あんしんカラーベルトの整備 35,000千円 (40,000)  
・市道美しが丘西第348号線 (青葉区) など
- (4) バリアフリーの推進 145,500千円 (204,000)  
・市が尾駅周辺地区 (青葉区) など
- (5) 住み続けたいまち・みちづくり推進事業  
10,000千円 (10,000)
- (6) 健康みちづくりの推進 65,200千円 (79,500)  
・ルート整備 (西区) など
- (7) 無電柱化の推進 755,867千円 (483,000)  
・環状2号線 (鶴見区) など
- (8) 自転車交通施策 47,500千円 (30,000)  
・自転車利用環境の向上に向けた検討業務 など
- (9) 交通結節点の整備 146,000千円 (177,216)  
・菊名駅バリアフリー化工事 (港北区) など
- (10) 旧深谷通信所跡地利用関連道路計画検討  
20,000千円 (20,000)
- (11) 旧上瀬谷通信施設跡地利用関連道路計画検討  
10,000千円 (10,000)
- (12) 鶴見川中下流域の橋梁間隔短縮検討 15,000千円 (15,000)

### 3 道路等の維持・管理

- (1) 道路がけ防災対策の推進 156,000千円 (170,000)  
・道路がけの防災工事
- (2) 交通安全施設の補修 285,794千円 (434,294)  
・防護柵、案内標識等の施設の補修  
・道路照明灯のLED化
- (3) 歩道橋の維持・管理 678,105千円 (719,001)  
・歩道橋長期保全計画に基づく長寿命化の推進  
・地震時の歩道橋の損傷防止のための耐震対策の推進
- (4) 施設管理 120,000千円 (151,716)  
・道路管理高度化システム (GIS)、路面下空洞調査

### 4 橋梁・トンネル等の維持・管理

- (1) 橋梁の地震対策 278,000千円 (630,000)  
・かたぶき人道橋 (金沢区) など
- (2) 橋梁の老朽化対策 3,378,114千円 (2,396,343)  
・第三和泉原橋 (泉区) など
- (3) トンネル・地下道の補修 192,091千円 (283,091)  
・萩台トンネル (磯子区) など



10	平成30年度 道路局予算 街路整備費	
	本年度	千円 42,662,674
	前年度	34,160,923
	差引	8,501,751
本年度の財源	国・県 支出金	13,268,746
	使用料	1
	諸収入等	7,197,709
	市債	11,672,000
	一般財源	10,524,218

横浜環状北西線整備事業や都市計画道路等の整備を実施します。

**1 高速道路の整備** 24,057,157千円 (21,556,940)

- (1) 横浜環状北西線及び関連街路
- (2) 横浜環状北線 関連街路
- (3) 横浜環状南線 関連街路

**2 幹線道路の整備** 17,792,317千円 (11,993,983)

- (1) 都市計画道路の整備 4,583,497千円 (4,676,518)
  - ・鴨居上飯田線【本宿二俣川地区】(旭区)
  - ・汐見台平戸線【大岡地区】(南区)
  - ・金沢シーサイドライン(金沢区)
  - ・泥亀釜利谷線【寺前地区】(金沢区)
  - ・宮内新横浜線【新吉田高田地区】(港北区)
  - ・東京丸子横浜線【綱島地区】(港北区)
  - ・環状3号線【戸塚地区・南戸塚地区・汲沢地区】(戸塚区)
  - ・桂町戸塚遠藤線【上倉田戸塚地区】(戸塚区)など

- (2) 連続立体交差事業 3,208,820千円 (2,317,465)
  - ・相模鉄道本線(星川駅～天王町駅)連続立体交差事業(保土ヶ谷区)  
3,049,000千円 (2,210,665)
  - ・相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業(旭区)  
159,820千円 (106,800)

- (3) 一般財団法人横浜市道路建設事業団への補助  
5,000,000千円 (5,000,000)

- (4) 一般財団法人横浜市道路建設事業団が保有する  
道路資産の購入  
5,000,000千円 (0)

**3 大岡川横断人道橋(仮称)の設計,工事** 683,200千円 (500,000)

**4 都心部の回遊性向上に資する歩行空間の拡充** 10,000千円 (0)

**5 橋梁・トンネル等の保全** 120,000千円 (110,000)

11	平成30年度 道路局予算 高速道路等整備費		<p>市民生活の利便性の向上、経済活動の活性化に向け、高速道路ネットワーク整備を積極的に進めるとともに、高速道路に関する道路の整備等を進めます。</p> <p>横浜環状道路の北西線（東名高速～第三京浜）・北線（馬場出入口）及び南線（横浜横須賀道路～国道1号）については、関連街路を含め、引き続き整備を進めます。</p>
	本年度	千円 2,258,699	
前年度	3,270,615		
差引	▲ 1,011,916		
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	60,713	
	市債	2,184,000	
	一般財源	13,986	
		<p><b>1 横浜環状道路関連街路調査費</b> 14,150千円 (85,800)</p> <p>・南線と関連街路の競合区間の設計等</p> <p><b>2 首都高速道路整備（横浜環状北線・北西線）に対する出資金</b> 2,184,000千円 (3,124,000)</p> <p><b>3 高速道路調査事務費等</b> 60,549千円 (60,815)</p>	

12	(12款2項6目) 道路費負担金		<p>国直轄事業（国道）に対して、道路法にもとづき負担金を支出します。</p> <p><b>1 国道468号横浜環状南線及び横浜湘南道路</b> 8,269,833千円 (8,269,833)</p> <p>・首都圏中央連絡自動車道等の改築 (幹線道路ネットワーク整備)</p> <p><b>2 国道16号電線共同溝の整備 など</b> 984,167千円 (984,167)</p>
	本年度	千円 9,254,000	
前年度	9,254,000		
差引	0		
本年度の財源	国・県支出金	78,750	
	使用料	0	
	諸収入等	0	
	市債	9,175,000	
	一般財源	250	

13	平成30年度 道路局予算 河川管理費		河川及び水路等の維持管理を適切に行うとともに、効率的な維持管理のため、点検を実施し、その結果に基づき、長寿命化に向けた取組を推進します。 水辺愛護会活動を充実させるため、他団体との交流会や表彰式等を実施します。 水防災情報システムによる確実な水位情報等の提供により、水防管理者との連携を強化します。
	本年度	千円 1,172,327	
	前年度	878,013	
	差引	294,314	
本年度の財源	国・県 支出金	0	<b>1 河川・水路等維持管理事業費</b> 847,787千円 (754,285) ・護岸、管理用通路、転落防止柵の補修 ・堆積土砂の浚渫 ・除草、樹木等の除去 ・ポンプ排水型河川遊水地の維持管理 など  <b>2 水政事業費</b> 72,559千円 (29,153) ・河川・水路の占用許可システムの開発 ・水辺愛護会活動への支援 など  <b>3 水防事業費</b> 251,981千円 (94,575) ・水位計、監視カメラ、通信回線の更新などシステムの再構築 ・親水拠点に設置されている警報装置の保守管理 ・水防資器材の備蓄・整備 など
	使用料	207,700	
	諸収入等	250,471	
	市債	0	
	一般財源	714,156	

14	(12款3項2目) 河川整備費		台風や集中豪雨等から市民の生命・財産や都市機能を守り、市民の安全・安心を確保するため、河川改修、流域貯留施設の整備を進めます。また、河川が本来有している環境の保全と創造を目指し、市民協働による多自然川づくりを進めます。
	本年度	千円 2,344,250	
	前年度	2,295,902	
	差引	48,348	
本年度の財源	国・県 支出金	1,031,000	<b>1 河川改修</b> 2,207,362千円 (2,119,422) (1) 都市基盤河川改修事業費 ・今井川 護岸改修 ・帷子川 学校橋の架替え、用地取得 ・阿久和川 慶林橋の架替え ・和泉川 新幹線下の護岸改修、橋梁架替え ・宮川 待橋架替えの設計 など (2) 準用河川改修事業費 ・準用日野川 護岸改修 ・準用舞岡川 護岸改修 など  <b>2 流域貯留浸透事業費</b> 14,200千円 (14,200) ・中山小学校 雨水貯留施設の設計委託 など  <b>3 河川環境整備事業費</b> 10,500千円 (37,000) ・帷子川におけるアユの遡上調査と川づくりの計画立案 など  <b>4 河川改良・老朽化対策事業費</b> 106,000千円 (112,000) ・河川保全計画に基づく護岸の長寿命化 など  <b>5 環境エネルギー活用による水防機能の強化</b> 6,188千円 (13,280) ・実証実験後の復旧作業 など
	使用料	0	
	諸収入等	35	
	市債	725,000	
	一般財源	588,215	

15	平成30年度 道路局予算 特別会計繰出金		自動車駐車場事業費会計、公共事業用地費会計及び生活交通バス路線維持支援事業に繰り出します。
	本年度	千円 1,136,857	
	前年度	1,260,824	
	差引	▲ 123,967	
本年度の財源	国・県支出金	0	<b>1 自動車駐車場事業費会計繰出金</b> 432,909千円 (546,363) ・自動車駐車場事業費会計への繰出金
	使用料	0	<b>2 公共事業用地費会計繰出金</b> 463,713千円 (447,533) ・都市開発資金の償還のための公共事業用地費会計への繰出金
	諸収入等	0	<b>3 横浜市生活交通バス路線維持支援事業</b>
	市債	0	240,235千円 (266,928) ・自動車事業会計への繰出金
	一般財源	1,136,857	

16	(特別会計) 自動車駐車場事業費会計		安全で円滑な道路交通の確保のため、路上駐車対策として、6箇所の市営地下駐車場の管理運営を行います。
	本年度	千円 999,069	
	前年度	1,049,843	
	差引	▲ 50,774	
本年度の財源	国・県支出金	89,100	<b>1 自動車駐車場運営費</b> 565,160千円 (502,480) 四輪 二輪 ・福富町西公園地下駐車場 184台 ・ポートサイド地下駐車場 200台 ・馬車道地下駐車場 200台 25台 ・山下町地下駐車場 193台 26台 ・日本大通り地下駐車場 200台 ・伊勢佐木長者町地下駐車場 200台
	使用料	400,448	<b>2 公債費</b> 432,909千円 (546,363)
	諸収入等	76,612	<b>3 予備費</b> 1,000千円 (1,000)
	市債	0	
	一般会計繰入金	432,909	

# 損失補償

## 1 一般財団法人横浜市道路建設事業団のためにする損失補償

### (1) 損失補償の概要

民間金融機関及び（一財）民間都市開発推進機構から借入を行った都市計画道路の整備に要した費用（債務）の返済状況にあわせ損失補償額を変更します。

ア 損失補償額	変更前：457億4700万円 変更後：414億8500万円
イ 損失補償期間	変更前：平成29年4月から平成40年3月まで 変更後：平成30年4月から平成40年3月まで

### (2) 団体の概要

#### ア 事業目的

横浜国際港都建設計画に基づいて行われる都市計画道路の整備事業の早期完成に資するため、横浜市と協調して都市計画道路の整備を行うとともに、その他の道路建設事業を推進することにより市民生活の向上、及び横浜市の産業・経済の発展に寄与することを目的としています。

- ・設立 昭和62年11月25日
- ・基本金 1億円（うち横浜市：5000万円（50%））

#### イ 団体の経営状況

横浜市からの補助金を受け、都市計画道路の整備に要した費用に係る債務の整理を行うとともに、公益法人制度により位置付けられた公益目的支出計画に基づき、市への道路資産等の引継ぎを計画的に行っています。

### (3) 損失補償を行う特別な理由・必要性

公共事業として行われた都市計画道路の整備に要した費用の借入に対する既存の損失補償であり、団体が保有する資産は担保能力がない道路資産であるため、独自で資金調達を行うことは困難な状況でした。

### (4) 対象債務の返済の見通しとその確実性

着実な返済を進めるうえで、平成26年8月に借入条件等の見直しを行い、また26年12月には中期計画において返済に充当する本市補助金を増額する方向性を打ち出しました。これにより39年度末までに対象債務を返済する見通しとなりました。

## 2 株式会社横浜シーサイドラインのためにする損失補償

### (1) 損失補償の概要

平成22年度から26年度にかけて行った車両（16編成・80両）等の設備更新に要した費用（債務）の返済状況にあわせ損失補償額を変更します。

ア 損失補償額	変更前：33億2000万円 変更後：24億8000万円
イ 損失補償期間	変更前：平成29年4月から平成33年3月まで 変更後：平成30年4月から平成33年3月まで

### (2) 団体の概要

#### ア 事業目的

横浜市における総合交通体系の一翼を担い、市民の交通の利便を確保することを目的としています。

- ・設立 昭和58年4月22日
- ・基本金 101億円（うち横浜市64億円（63.4%））

#### イ 団体の経営状況

開業以来、無事故運転を継続することで公益的使命を果たし、平成28年度決算では3億5千万円の純利益を計上するなど、経営改善を着実に進めています。

### (3) 損失補償を行う特別な理由・必要性

安全かつ安定した運行を確保するためには、車両等の設備更新が必要であり、更新費用について民間金融機関から融資を受ける際、本市からの損失補償を求められました。

### (4) 対象債務の返済の見通しとその確実性

平成25年12月に株式会社横浜シーサイドラインが示した中期経営計画の中で、対象債務を27年度から32年度にかけて返済する計画が位置けられています。

## <参考> 各区土木事務所との連携

各区土木事務所では、道路局からの配付予算を使って道路修繕や河川の維持管理など、地域に密着した事業を行っています。

ここでは、平成30年度の各区土木事務所の主な取組を紹介します。

### 中土木事務所

#### 【道路修繕事業】

主要地方道山下本牧磯子線の本牧間門から本牧原の区間は、平成26年度より間門交差点から計画的な補修を実施しています。平成29年度は本牧和田地区（約380m）を補修しました。

30年度は引き続き、本牧原地区（約200m）を補修し、計画区間約2.0kmが完了する予定です。



平成30年度実施予定 本牧原地区



施工前



施工後

平成29年度実施 本牧和田地区

### 金沢土木事務所

#### 【河川水路等の維持管理】

東朝比奈三丁目の民地崖について、地域から県に急傾斜崩壊危険区域としての指定・整備の要望が出されていましたが崖下の本市管理の水路に洗掘の恐れがあり、現状のままでは指定できないことが判明しました。

そこで平成28年度、約100mについてU型側溝の整備を行いました。また残りの約70mについては、水路上に崖が張り出している箇所があり施工上危険なため、30年度以降、県と工程調整しながら整備します。



施工前



施工後

### 青葉土木事務所

#### 【雨水調整池ビオトープ維持管理】

青葉区には市内最多20箇所の雨水調整池ビオトープがあり、動植物の特性を活かし、生物多様性に配慮した維持管理手法の確立を目指しています。

20箇所ある雨水調整池の中から生物多様性に配慮した維持管理を行う雨水調整池の優先順位付けを行い5か所選定し、その内の3か所で月に1度の定期調査を実施、その中で、雨水調整池内に生息する動植物等を把握し、多様な生物が育まれる管理手法の検討を行っています。



H28年11月



H29年3月

全面草刈



H29年9月

経過観察

## 都筑土木事務所

### 【道路がけ防災対策事業】

都筑区東方町の道路がけ防災対策箇所は、市道に面した高さ5m程度の斜面と石積み（下法）になっており、斜面の地盤がむき出しになっていることから、風雨による劣化で落石が見られるなど、道路まで崩壊する危険性があります。

過去に崩壊している部分もあることから、道路や埋設されている下水道などのライフラインを守るため、平成30年度はブロック積擁壁による対策工事を行います。



## 戸塚土木事務所

### 【道路修繕事業】

主要地方道環状4号線では、平成27年度から計画的な補修を進め、深谷町地内において平成27年度は約410m、28年度は約410mを実施し、29年度は引き続き深谷町地内の、横浜深谷台小学校入口から戸塚区と泉区との区境まで（約610m）を実施しました。30年度は、小雀町地内や原宿交差点付近での修繕工事を実施し、安全な道路環境の確保に取り組みます。



平成30年度実施予定 小雀町地区



平成29年度実施 深谷町付近



## 栄土木事務所

### 【バリアフリーの推進】

本郷台地区のバリアフリー整備については、平成24年度から順次整備を進めており、29年度は本郷台駅前広場の改修を実施しました。本郷台駅前広場では、歩道部の平たん部が確保されていない個所や視覚障害者誘導用ブロックの輝度比が確保されていないなどの課題があり、歩道部の舗装改修や視覚障害者誘導用ブロックの再設置を行いました。

30年度も引き続き、本郷台駅周辺のバリアフリー化を進めます。



平成29年度実施 本郷台駅前広場

